接着・封止材

Weekly Intelligence Report

2026-09-12 ¦ 32件 ¦ 9カ国

troy-technical.jp

今週のキーワード

次世代接着材

AI熱管理、EVリサイクル、循環型接着が加速

32	9	381	16
件	カ国	Wh/kg	%
総記事数	対象国数	全固体電池	熱抵抗削減

今週の全32記事 — 5軸評価で読むべき記事を選ぶ

各列の見方 — 技術新規性：ブレークスルー度合い 実用化距離：製品として使える近さ 市場インパクト：業界全体への影響規模
データ信頼性：定量データ・査読の有無 日本関連度：日本の企業・サプライチェーンとの直接的関連性

#	記事タイトル	種別	技術新規性	実用化距離	市場インパクト	データ信頼性	日本関連度	一行サマリ
#01	廃棄ポリマー再利用接着剤	学術論文	●●●●	●●○○	●●●●	●●●○	●●●●	オークリッジ国立研究所が廃棄ポリマーから水中・乾燥両用で再利用可能な高性能接着剤を開発。加熱で剥離し、自動車・航空宇宙のリサイクルに貢献。
#02	Sika、Akkim買収完了	企業戦略	●○○○	●●●●	●●●○	●●●●	●●○○	Sikaがトルコ大手Akkimを買収完了。東欧・中東市場での接着・シーリング材事業を強化し、年間売上高2.2億スイスフラン増。
#03	QEP、Spray-Lock買収	企業戦略	●●○○	●●●●	●●○○	●●●●	●●○○	Q.E.P. CO., INC.が低VOCスプレー接着剤のSpray-Lockを買収。床材施工ソリューションを強化し、環境配慮型製品を拡充。
#04	JBC、NADCO買収	企業戦略	●●○○	●●●●	●●●○	●●●●	●●●○	JBC TechnologiesがNADCO Tapes & Labelsを買収し、医療機器・ウェアラブル向けカスタムテープ、ラベル、接着部品事業を拡大。
#05	SiC/GaN向けTIM選定ガイド	解説記事	●●○○	●●●●	●●●○	●●●○	●●●○	Caly TechnologiesがパワーエレクトロニクスTIM選定ガイドを発表。SiC・GaNデバイスの熱管理を最適化し、銀焼結/グラフェンスプレッダーを推奨。
#06	315 °C超耐熱フィルム接着剤	新製品	●●●●	●●●●	●●●●	●●●○	●●●○	Cambiumが航空宇宙・防衛向けに315 °C超耐熱フタロニトリル系ラミネートフィルム接着剤「ApexFrame 5000」を発表。
#07	低可燃性シリコーンエラストマー	新製品	●●●○	●●●●	●●●○	●●●●	●●●○	CHT-Siliconesが電子ポッティング・封止向け2液性低可燃性シリコーンエラストマー「Silso protect 21190 A/B」を発表。
#08	グラフェン冷却材生産拡大	企業戦略	●●●○	●●●○	●●●●	●●●○	●●●●	Smart High TechがHenkel Venturesから約1050万ドルを調達し、グラフェン強化熱界面材料「GT-TIM」の生産を拡大。AI・HPCの熱管理に貢献。
#09	自動車構造用接着剤革新	解説記事	●●○○	●●●●	●●●●	●●●○	●●●●	2026年の自動車産業では、アルミニウム・複合材料向け構造用接着剤が軽量化、アセンブリ効率、耐久性を劇的に向上させ、新エネルギーシステムにも不可欠。
#10	TIMポートフォリオ拡充	製品紹介	●●○○	●●●●	●●●○	●●●○	●●●○	CTX Thermal Solutionsが5G・EV・医療向けに熱パッド、グラファイト箔などTIMポートフォリオを拡充。高発熱アプリケーションの熱管理に対応。
#11	AI向け高熱伝導性材料	新製品	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	Indium CorporationがSEMICON TaiwanでAI向け高熱伝導性焼結ペースト、非リフロー金属TIMなど先端材料を展示。AI半導体の性能向上と信頼性確保に貢献。
#12	EV熱管理サーマルパテ	解説記事	●●○○	●●●●	●●●○	●●●○	●●●●	HakTakがEVバッテリー・インバーターの熱管理に不可欠なサーマルパテの活用法を解説。ギャップ、圧力、硬化メカニズムなどを考慮し最適化。

#	記事タイトル	種別	技術新規性	実用化距離	市場インパクト	データ信頼性	日本関連度	一行サマリ
#13	Samsung、2nm iPhone熱抵抗削減	技術比較	●●●●○	●●●●○	●●●●○	●●●○○	●●●●○	Apple 2nm iPhone 18発表を受け、Samsungが封止材とTIM改良で熱抵抗を最大16%削減。日本の材料メーカーも貢献しTSMCと競争激化。
#14	ポリイミドの半導体PKG役割	解説記事	●●○○○	●●●●○	●●●○○	●●●○○	●●●○○	AZoMが半導体パッケージングにおけるポリイミドの不可欠な役割を解説。HBM・チップレット向けRDLにおいて絶縁、接着、応力制御を実現。
#15	H.B. Fuller決算発表	企業戦略	●○○○○	●●●●○	○○○○○	●●●●○	○○○○○	接着剤・シーラント大手H.B. Fuller Companyが2026年第3四半期決算を9月23日に発表。翌日には投資家向け電話会議を開催。
#16	ProLogium全固体電池量産	新製品	●●●●○	●●●●○	●●●●○	●●●●○	●●●●○	ProLogium Technologyが第3.5世代リチウムセラミック全固体電池の量産を開始。エネルギー密度381 Wh/kgでEV航続距離を刷新。
#17	LMRバッテリー安定性向上	学術論文	●●●●○	●●○○○	●●●●○	●●●○○	●●●●○	LG Energy Solutionとソウル大学がLMRバッテリー大規模セルの安定性を向上させる運用・製造条件を開発。コバルト低減とコスト競争力向上へ。
#18	ウォッシュアウェイラベル接着剤	新製品	●●●○○	●●●●○	●●●○○	●●●○○	●●●○○	Wausau Coated Productsが再利用ガラス瓶向けに簡単剥離の新ウォッシュアウェイラベル接着剤「WA-669」を発表。リサイクル効率向上に貢献。
#19	医療機器接着・硬化ソリューション	製品紹介	●●○○○	●●●●○	●●○○○	●●●○○	●●●○○	DymaxがMedical Technology Ireland 2026で医療機器向け高効率・高信頼性接着・硬化ソリューションを展示。カテーテル組立等に貢献。
#20	700nm RDL形成成功	学術論文	●●●●○	●●○○○	●●●●○	●●●●○	●●●●○	太陽ホールディングスとimecが共同で、先端パッケージ向けに700nmの再配線層（RDL）形成に成功。AI・HPCチップの高性能化を加速。
#21	Sika、Akkim買収完了	企業戦略	●○○○○	●●●●○	●●●○○	●●●●○	●●○○○	Sikaがトルコ接着剤メーカーAkkimの買収を完了。グローバル市場での接着剤・シーラント事業を大幅強化し、成長市場へのアクセスを拡大。
#22	リサイクル可能モノマテリアルテープ	学術論文	●●●●○	●○○○○	●●●●○	●●●●○	●●●●○	Virginia Techがダクトテープを超える性能と化学的リサイクル性を両立したモノマテリアル接着テープを開発。包装分野に革命の可能性。
#23	EVバッテリー半自動リサイクル	技術開発	●●●●○	●●●○○	●●●●○	●●●○○	●●●●○	EU BATRAWプロジェクトがEVバッテリー解体時間を最大60%短縮する半自動リサイクル技術を開発。ロボティクス、AI、レーザー切断を統合。
#24	バイオPSA接着・凝集バランス	学術論文	●●●●○	●●○○○	●●●○○	●●●●○	●●●○○	イタコン酸化学とナノセルロース補強で高バイオ含有水性PSAの接着・凝集バランスを最適化。持続可能な接着剤の実用化を加速。
#25	Henkel、SMP接着剤回収強化	企業戦略	●●○○○	●●●●○	●●○○○	●●●○○	●●○○○	Henkelメンター工場が湿気硬化型SMP接着剤の回収能力を強化。製造廃棄物削減と持続可能な生産を推進し、経済効率を改善。
#26	スイッチングPSAエラストマー	学術論文	●●●●○	●○○○○	●●●●○	●●●●○	●●●○○	コバルト触媒重合が、熱で剥離可能なスイッチングPSA向け軟質メタクリレートネマティックエラストマーを実現。再利用可能な接着システムに期待。
#27	狭幅ウェブ印刷提携	企業戦略	●●○○○	●●●●○	●●○○○	●●●○○	○○○○○	Sun ChemicalとCyngientが狭幅ウェブ印刷向け戦略的提携を発表。特殊コーティングと高性能接着剤で市場を拡大し、印刷品質を向上。
#28	高速UV/可視光硬化エミッタ	新製品	●●●○○	●●●●○	●●●○○	●●●●○	●●●○○	Dymaxが高速UV/可視光硬化向けBlueWave® FXラインエミッタを発売。最大4.2W/cm²で生産スループットを大幅に向上。
#29	EV剥離可能接着剤市場	市場概観	●●○○○	●●●●○	●●●●○	●●●○○	●●●●○	EVバッテリーモジュール向け剥離可能接着剤市場でエポキシ系システムが2026年に牽引。熱剥離システムが主流で、リサイクル促進に貢献。
#30	自動車向け自己修復接着剤	新製品	●●●○○	●●●○○	●●●●○	●●●○○	●●●●○	B8Xが2026年自動車向け構造用接着剤の革新を発表。軽量化、エコフレンドリー、自己修復機能を追求し、車体接合と燃費効率を改善。

#	記事タイトル	種別	技術新規性	実用化距離	市場インパクト	データ信頼性	日本関連度	一行サマリ
#31	2026年接着剤業界トレンド	市場概観	●●○○○	●●●●●	●●●●●	●●●○○	●●●●●	2026年接着剤業界トレンドはウォッシュオフ・リサイクル対応、バイオベースホットメルト、修理権を支える剥離可能接着剤が主流に。大手企業が投資を加速。
#32	鉄道車両向け難燃・剥離材	新製品	●●●○○	●●●●○	●●●○○	●●●●○	●●●○○	ヘンケルがInnoTrans 2026で鉄道車両向け難燃性シーラント「Teroson MS 949 FR」と剥離ソリューション「Loctite NEO」を発表。

●●●●○ High ●●●○○ Med-High ●●○○○ Med ●○○○○ Low ¦ 背景黄色＝注目記事

今週、判断に影響しうる3つの問い

❶ AI・EVの熱管理、既存材料で限界か？

Samsungが2nm iPhone向けに封止材とTIMを改良し熱抵抗を16%削減、IndiumはAI向け高熱伝導性焼結ペーストを展示。ProLogiumの全固体電池量産開始でEVの発熱課題も深刻化。貴社の製品は次世代デバイスの熱課題に対応できているか？

❷ 循環型経済への対応、後手に回っていないか？

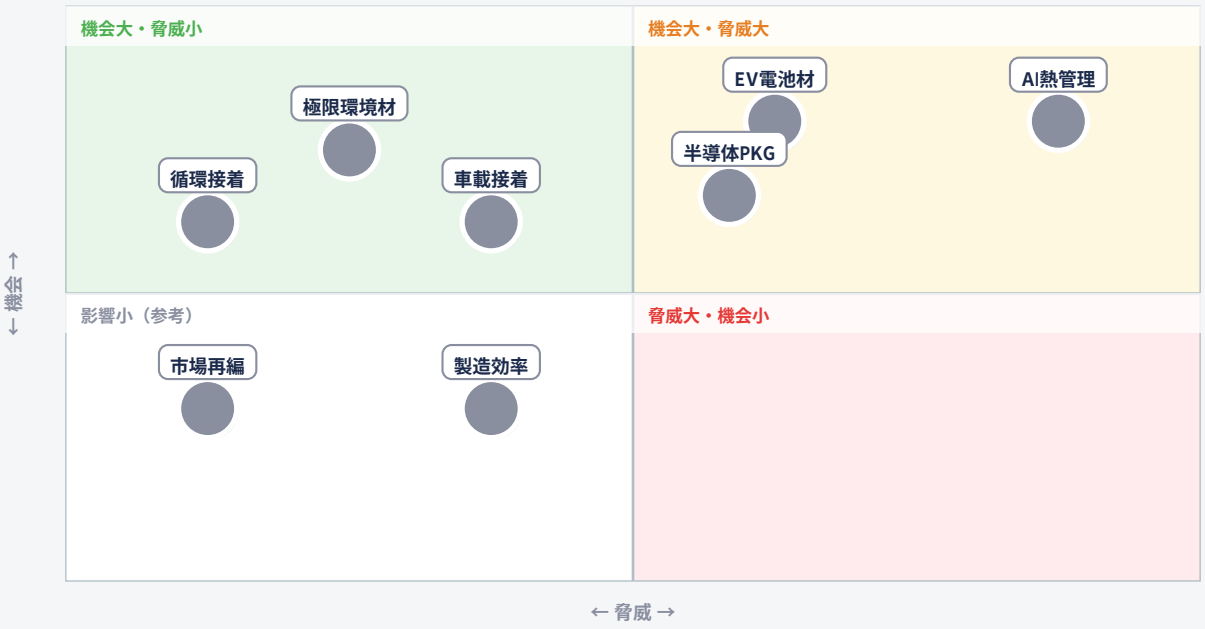
廃棄ポリマーからの再利用可能接着剤、化学的リサイクル可能なモノマテリアルテープ、ウォッシュアウェイ接着剤、剥離可能接着剤が相次いで発表。EUではEVバッテリーの半自動リサイクル技術も開発。貴社の接着・封止材は「修理する権利」や「リサイクル性」に対応できるか？

❸ 日本の材料技術は、世界の先端を走り続けられるか？

太陽ホールディングスがimecと共同で700nm RDL形成に成功し、先端半導体パッケージングで存在感を示す。一方で、グラフェンTIMや全固体電池など、海外勢の技術革新と量産化も加速。日本の強みをどう活かし、新たな競争優位を築くか？

日本企業にとっての「機会 vs 脅威」

日本企業にとっての「機会 vs 脅威」マトリクス



項目	象限	↑ 機会	↓ 脅威
AI熱管理	注意	高性能TIM需要増	競争激化、技術追従
EV電池材	注意	新規材料・技術	リサイクル規制強化
循環接着	機会大	環境対応製品	既存製品陳腐化
車載接着	機会大	軽量化・高機能化	開発競争激化
半導体PKG	注意	高付加価値化	微細化技術競争
極限環境材	機会大	高信頼性需要	開発難易度高
市場再編	参考	提携・買収	競争激化

● 製造効率	参考	生産性向上	設備投資増

深掘り ① — 全固体電池、量産開始でEV市場刷新

#16 ┆ 2026/09/09 ┆ Electric Cars Report ┆ 技術新規性●●●●● 実用化距離●●●●○ 市場インパクト●●●●●
データ信頼性●●●●○ 日本関連度●●●●●

ProLogium Technologyが台湾のギガファクトリーで第3.5世代リチウムセラミック全固体電池の量産を開始。重量エネルギー密度381 Wh/kgを達成し、EVの航続距離、充電速度、安全性を劇的に向上させる可能性を秘めています。これは全固体バッテリーの量産化における重要なマイルストーンであり、次世代モビリティへの移行を加速させます。

固体電解質により熱暴走リスクを低減し、高いエネルギー密度と安全性を両立。EV市場におけるバッテリー競争を新たな局面へと導き、より高性能で安全なバッテリーを求める市場ニーズに応えます。材料調達の安定性やコスト面でも優位性を持つ可能性があり、サプライチェーン全体にポジティブな影響が期待されます。

▶ 技術者の視点

【数値妥当性】381 Wh/kgは現在のリチウムイオン電池のトップクラスを上回る画期的な数値であり、EV航続距離を大幅に伸ばす可能性を秘めています。量産開始という発表は非常に重く、実用化に向けた大きな一歩と評価できます。 【未解決課題】量産規模でのコスト競争力、長期信頼性（サイクル寿命、安全性）、そして低温特性のさらなる検証が必要です。特に、EVメーカーへの供給が本格化する中で、品質の安定供給が鍵となります。 【機会】日本の電池材料メーカーは、固体電解質や電極材料、セパレーター、そしてバッテリーパック内のTIMや封止材など、全固体電池に特化した高機能材料の開発・供給で大きなビジネスチャンスがあります。EVメーカーは、航続距離と安全性の向上により製品競争力を高められます。 【脅威】日本の電池メーカーやEVメーカーは、この技術に追随できない場合、市場競争力を失う可能性があります。特に、材料サプライヤーは、既存の液系リチウムイオン電池向け材料からの転換を迫られる可能性があります。 【次のアクション】日本の材料メーカーは、ProLogiumの技術動向を詳細に分析し、全固体電池向け材料の共同開発や供給体制構築を【R&D;】【事業開発】が【即時】に検討すべきです。EVメーカーは、次世代バッテリーの採用ロードマップを【EV設計】【経営企画】が【短期】で策定する必要があります。

深掘り ② — AI向け高熱伝導性材料で半導体刷新

#11 ┆ 2026/09/10 ┆ Indium Corporation ┆ 技術新規性●●●●○ 実用化距離●●●●○ 市場インパクト●●●●●
データ信頼性●●●●○ 日本関連度●●●●●

Indium CorporationがSEMICON Taiwan 2026でAI技術を可能にする異種統合・アセンブリ（HIA）製品と、画期的な熱界面材料（TIM）を展示。特に、高熱伝導性のはんだTIM、SiCダイアタッチ用のInFORCE ® MF圧力Ag焼結ペースト、高熱伝導率InBAKE™29 Cu焼結ペースト、そして大型ダイの反りに対応する非リフロー金属TIM「Heat-Spring ® HSx」が紹介されました。

これらの材料は、AI半導体の高集積化と高発熱化に対応し、システムの熱管理におけるボトルネックを解消することを目指しています。特に、焼結ペーストの進化は、パワーエレクトロニクスや高周波デバイスの信頼性向上にも寄与し、幅広い産業分野での採用が期待されます。AIチップの性能向上と信頼性確保に不可欠な技術です。

▶ 技術者の視点

【数値妥当性】具体的な熱伝導率の数値は未公表ですが、AI向けという用途から、既存製品を大幅に上回る性能が期待されます。特に200ミクロン以上の反りを持つ大型ダイに対応するHeat-Spring ® HSxは、実用上の大きな課題を解決する可能性を秘めています。 【未解決課題】焼結ペーストの量産性、コスト、そして長期信頼性（特に熱サイクル耐性）のデータが重要です。また、異なる材料間の熱膨張係数のミスマッチをどう吸収するかも課題となります。 【機会】日本の半導体材料メーカーは、高熱伝導性フィラー、焼結ペースト、金属TIMなどの開発・供給で大きな機会を得られます。AIチップの性能は熱管理で決まるため、この分野での技術優位性は市場競争力に直結します。半導体製造装置メーカーも、これらの新材料に対応する装置開発が求められます。 【脅威】海外メーカーが先行する高機能TIM市場において、日本の材料メーカーが追従できない場合、AI・HPC市場での存在感が低下する可能性があります。特に、焼結技術は高度なノウハウが必要であり、開発競争は激化するでしょう。 【次のアクション】日本の半導体材料メーカーは、Indiumの発表を詳細に分析し、自社のTIMおよび焼結ペースト技術のロードマップを【R&D;】【半導体PKG】が【即時】に再評価すべきです。AIチップ開発企業は、これらの新材料の評価を【R&D;】【調達】が【短期】で開始し、サプライヤーとの連携を強化する必要があります。

深掘り ③ ― 太陽HD、700nm RDL形成で先端PKG加速

#20 ¦ 2026/09/11 ¦ ChemAnalyst ¦ 技術新規性●●●●● 実用化距離●●○○○ 市場インパクト●●●●●
データ信頼性●●●●○ 日本関連度●●●●●

太陽ホールディングスは、imecとの共同研究により、次世代半導体パッケージング材料「FPIMシリーズ」を用いて、先進パッケージング向けに700nmの再配線層（RDL）形成を達成しました。これは、AIチップや高性能コンピューティング（HPC）向け半導体の微細ピッチ化と高性能化を可能にする重要な技術的進展です。従来の限界を超えるRDL技術は、半導体パッケージの集積度と電気特性を大幅に向上させます。

FPIMシリーズはフォトリソグラフィプロセスに適した感光性ポリマー材料で、高解像度、低誘電率、優れた耐熱性を持つ。imecの先進プロセス技術と組み合わせることで、極めて微細なRDLパターンを高い精度で形成し、信号伝送の高速化と低損失化を達成。2.5D/3Dパッケージングやファンアウトパッケージングなど、先端パッケージング技術の進化を加速させます。

▶ 技術者の視点

【数値妥当性】700nmというRDLの微細化は、現在の最先端パッケージング技術においても非常に挑戦的な目標であり、この達成は学術的にも産業的にも大きなブレークスルーです。日本の材料メーカーがこの分野で世界をリードしていることを示すものです。 【未解決課題】この技術の量産適用性、コスト効率、そして長期信頼性（特に熱機械的ストレスに対する耐久性）の検証が今後の課題です。また、より微細なRDL形成には、材料だけでなく、露光装置やエッチング技術との連携も不可欠です。 【機会】日本の半導体材料メーカーは、このRDL形成技術を基盤として、AIアクセラレーターやHPCプロセッサ向けの次世代パッケージング材料市場で圧倒的な優位性を確立する機会があります。高付加価値材料の供給を通じて、半導体サプライチェーンにおける日本の存在感をさらに高めることができます。 【脅威】この技術を他社が追随・模倣する可能性があり、継続的な研究開発投資が不可欠です。また、材料とプロセス技術の統合が重要となるため、材料メーカー単独での開発だけでなく、半導体メーカーや装置メーカーとの密接な連携が求められます。 【次のアクション】太陽ホールディングスは、この技術の早期商業化に向けたロードマップを【R&D;】【経営企画】が【即時】に策定し、imecとの連携をさらに強化すべきです。日本の半導体パッケージング企業は、このFPIMシリーズの評価を【半導体PKG】【R&D;】が【短期】で開始し、次世代製品への採用を検討する必要があります。

その他の注目記事

2026年接着剤業界トレンド：ウォッシュオフ・リサイクル対応、バイオベースホットメルト、修理権を支える剥離可能接着剤が主流に (Accio)
技術新規性●●○○○ 実用化距離●●●●● 市場インパクト●●●●● 日本関連度●●●●●

接着剤業界全体が循環型経済へ移行。ウォッシュオフ、バイオベース、剥離可能接着剤が主流となり、日本の材料メーカーは環境対応製品へのシフトが急務。

2026年自動車産業、アルミニウム・複合材料向け構造用接着剤でアセンブリ効率と耐久性を革新 (B8X)
技術新規性●●○○○ 実用化距離●●●●● 市場インパクト●●●●○ 日本関連度●●●●●

自動車の軽量化・EV化に伴い、異種材料接合用構造用接着剤の重要性が増大。日本の自動車メーカーは、接着技術を戦略的要素として捉え、サプライヤーとの連携強化が鍵。

Virginia Tech、ダクトテープを超える性能と化学的リサイクル性を両立したモノマテリアル接着テープを開発 (Packaging Insights)
技術新規性●●●●● 実用化距離●○○○○ 市場インパクト●●●●○ 日本関連度●●●●○

基材と接着剤が化学的にリサイクル可能なモノマテリアルテープは、包装分野に革命をもたらす可能性。基礎研究段階だが、日本の包装材・接着剤メーカーは長期的な視点で注目すべき技術。

EVバッテリーモジュール向け剥離可能接着剤市場、エポキシ系システムが2026年に市場を牽引 (openPR.com)
技術新規性●●○○○ 実用化距離●●●●● 市場インパクト●●●●○ 日本関連度●●●●○

EVバッテリーのリサイクル促進と「修理する権利」により、剥離可能接着剤の需要が拡大。日本のEV・バッテリー材料メーカーは、熱剥離エポキシ系システムの動向を注視し、製品開発に活かすべき。

今週のアクション提案

記事評価マトリクスと機会/脅威分析を踏まえたアクション提案です。

即時（今週中）

- 【R&D;】AI/HPC向け高熱伝導性TIM、剥離可能接着剤、全固体電池関連材料の最新動向を調査し、Indium、Samsung、ProLogiumの技術詳細を深掘り。
- 【経営企画】EVバッテリーリサイクル関連の法規制動向（EU BATRAWなど）を注視し、将来的な事業戦略への影響を評価。

短期（1ヶ月）

- 【R&D;】太陽ホールディングスの700nm RDL形成技術の応用可能性を検討し、自社材料の微細化対応ロードマップを再評価。
- 【半導体PKG】AIチップの熱管理課題に対し、高熱伝導性焼結ペーストや非リフロー金属TIMのサンプル評価を検討し、サプライヤーとの連携を強化。
- 【EV設計】ProLogiumの全固体電池量産化に伴うバッテリーパック設計変更の可能性を検討。特に熱管理と剥離可能接着剤の要件を再定義。
- 【材料開発】再利用可能・化学的リサイクル可能な接着剤（Virginia Tech、オークリッジ）の基礎研究動向を追跡し、自社製品への応用可能性を検討。

中長期（四半期〜）

- 【R&D;】自己修復接着剤やバイオベース接着剤など、持続可能性と高機能を両立する次世代接着剤の研究開発を強化し、特許戦略を構築。
- 【事業開発】EVバッテリーリサイクル技術を持つ企業との提携やM&A;の可能性を検討し、循環型経済への貢献を事業機会とする。
- 【製造】高速UV/可視光硬化装置（Dymax）の導入による生産性向上とVOC削減効果を評価し、スマートファクトリー化を推進。

troy-technical.jp 独自キュレーション。記事著作権は各原著作者に帰属。 ¦ Gemini API + Claude ¦ 2026-09-12

接着・封止材 採用記事全文集

出力日: 2026-09-12

採用記事数: 32 件

収録記事一覧

#01 オークリッジ国立研究所、廃棄ポリマーから水中・乾燥環境で機能する再利用可能接着剤を開発

#02 Sika AG、トルコ接着・シーリング材大手Akkimの買収完了で東欧・中東市場強化、年間売上高2.2億スイスフラン増

#03 Q.E.P. CO., INC.がSpray-Lockを買収、低VOCスプレー接着剤の製造プラットフォームを拡充

#04 JBC Technologies、NADCO Tapes & Labelsを買収し医療・ウェアラブル向け接着部品事業を拡大

#05 Caly Technologies、パワーエレクトロニクス向けTIM選定ガイド発表 — SiC・GaNデバイスの熱管理を最適化

#06 Cambium、航空宇宙・防衛向け315°C超耐熱ラミネートフィルム接着剤「ApexFrame 5000」を発表

#07 CHT-Silicones、電子ポッティング・封止向け2液性低可燃性シリコーンエラストマー「Silso protect 21190 A/B」を発表

#08 Smart High TechがHenkel Venturesから約1050万ドルを調達、グラフェン冷却材「GT-TIM」の生産拡大へ

#09 2026年自動車産業、アルミニウム・複合材料向け構造用接着剤でアセンブリ効率と耐久性を革新

#10 CTX Thermal Solutions、5G・EV・医療向けに熱パッド・グラファイト箔などTIMポートフォリオを拡充

#11 Indium Corporation、SEMICON TaiwanでAI向け高熱伝導性焼結ペースト・TIMなど先端材料を展示

#12 HakTak、EVバッテリー・インバーター熱管理を最適化するサーマルパテの活用法を解説

#13 Apple 2nm iPhone 18発表、Samsungが封止材とTIM改良で熱抵抗16%削減しTSMCと競争激化

#14 AZoMがポリイミドの半導体パッケージングにおける役割を解説—HBM・チップレット向けRDLに不可欠

#15 H.B. Fuller、2026年第3四半期決算を9月23日に発表へ

#16 ProLogium、第3.5世代全固体電池を量産開始 — エネルギー密度381 Wh/kgでEV航続距離を刷新

#17 LG Energy Solutionとソウル大学、LMRバッテリー大規模セル安定性でブレークスルー — コバルト低減とコスト競争力向上へ

#18 Wausau Coated Products、再利用ガラス瓶向けに簡単剥離の新ウォッシュアウェイラベル接着剤「WA-669」を発表

#19 Dymax、Medical Technology Ireland 2026で医療機器向け高効率・高信頼性接着・硬化ソリューションを展示

#20 太陽ホールディングス、imecと共同で先端パッケージ向け700nm RDL形成に成功 — AI・HPCチップの高性能化を加速

#21 Sika、トルコ接着剤メーカーAkkimの買収を完了 — グローバル市場での接着剤・シーラント事業を大幅強化

#22 Virginia Tech、ダクトテープを超える性能と化学的リサイクル性を両立したモノマテリアル接着テープを開発

#23 EU BATRAWプロジェクト、EVバッテリー解体時間を最大60%短縮する半自動リサイクル技術を開発

#24 イタコン酸化学とナノセルロース補強で高バイオ含有水性PSAの接着・凝集バランスを最適化

#25 Henkelメンター工場、湿気硬化型SMP接着剤回収能力を強化 — 製造廃棄物削減で持続可能な生産を推進

#26 コバルト触媒重合が、スイッチ可能な感圧接着剤向け軟質メタクリレートネマティックエラストマーを実現

#27 Sun ChemicalとCyngient、狭幅ウェブ印刷向け戦略的提携を発表 — 特殊コーティングと高性能接着剤で市場を拡大

#28 Dymax、高速UV/可視光硬化向けBlueWave® FXラインエミッタを発売 — 最大4.2W/cm²で生産スループットを向上

#29 EVバッテリーモジュール向け剥離可能接着剤市場、エポキシ系システムが2026年に市場を牽引

#30 B8X、2026年自動車向け構造用接着剤の革新を発表：軽量化、エコフレンドリー、自己修復機能を追求

#31 2026年の接着剤業界トレンド：ウォッシュオフ・リサイクル対応、バイオベースホットメルト、修理権を支える剥離可能接着剤が主流に

#32 ヘンケル、InnoTrans 2026で鉄道車両ライフサイクル向け接着・シーラント新製品を発表：難燃性シーラントと剥離ソリューションを導入

#01 オークリッジ国立研究所、廃棄ポリマーから水中・乾燥環境で機能する再利用可能接着剤を開発

公開日 2026年09月10日　Adhesives & Sealants Industry　アメリカ



概要

オークリッジ国立研究所の研究チームが、廃棄ポリマーを原料とし、水中および乾燥環境の両方で機能する再利用可能な高性能接着剤を開発しました。この新規接着剤は、市販製品よりも優れた強度を持ち、木材、ガラス、金属など幅広い素材に接着可能です。ムール貝の接着メカニズムに着想を得ており、可逆的な化学架橋剤によって加熱時に結合を解放し、何度でも再利用できるため、接着材のライフサイクル全体で環境負荷を低減します。この技術は、特に自動車や航空宇宙産業における異種材料接合の課題解決に大きく貢献する可能性があります。

詳細

主要成果

オークリッジ国立研究所（ORNL）の研究チームは、廃棄ポリマーを再利用し、水中と乾燥環境の双方で高い接着力を発揮する革新的な接着剤を開発しました。この接着剤は、従来の市販製品と比較して優れた強度を持ち、木材、ガラス、金属、紙、様々なポリマーを含む多様な材料表面に強力に接着します。さらに、この接着剤の最大の特徴は、加熱によって結合を解放し、再利用が可能である点であり、接着材料の循環型経済への貢献が期待されます。

技術・臨床詳細

研究者たちは、ムール貝が水中で岩に付着するメカニズムからインスピレーションを得て、接着剤の分子設計を行いました。具体的には、可逆的な化学架橋剤をポリマーマトリックスに組み込むことで、特定の温度条件下で接着結合を意図的に解放・再形成できる能力を持たせています。これにより、接着した部品を損傷なく分離し、接着剤自体を再利用することが可能になります。この技術は、複雑な異種材料の接合や、修理・リサイクルを容易にするためのデボンディング（剥離）特性が求められる用途で特に価値を発揮します。

背景・業界文脈

現在の接着剤市場では、一度接着すると分離が困難な製品が多く、廃棄物処理やリサイクルのプロセスにおける課題となっていました。特に、自動車や航空宇宙産業では、軽量化のためにアルミニウムや複合材料といった異なる種類の材料を接合するニーズが高まっていますが、これらの異種材料の接着と、将来的な分解・リサイクルを両立させることは困難でした。ORNLの研究は、この課題に対する持続可能かつ高性能な解決策を提示し、接着剤の選択肢を大きく広げるものです。

今後の展望

この再利用可能な接着剤は、製造業における資源効率の向上と環境負荷の低減に貢献する可能性を秘めています。自動車、航空宇宙、電子機器などの分野で、製品の修理性、再構成性、リサイクル性を向上させるためのキーテクノロジーとなることが期待されます。今後、さらなる材料の最適化や大規模生産技術の開発が進めば、広範な産業での実用化が見込まれます。

元記事: https://www.adhesivesmag.com/articles/102655-researchers-develop-a-reusable-adhesive-from-waste-polymers

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#02 Sika AG、トルコ接着・シーリング材大手Akkimの買収完了で東欧・中東市場強化、年間売上高2.2億スイスフラン増

公開日 2026年09月03日　Plasticker　ドイツ



概要

スイスの特殊化学品大手Sika AGは、トルコの接着剤およびシーリング材メーカーAkkimの買収を完了し、東欧、中央アジア、中東、北アフリカ地域の成長市場における地位を強化しました。Akkimは2025年に約2億2000万スイスフランの純売上高を記録しており、この買収によりSikaの製品ポートフォリオ、流通チャネル、生産能力が大幅に拡大します。Sikaは、建設化学品分野でのプレゼンスを強化し、主要成長市場へのアクセスを深めることで、地域戦略の実現を加速します。

詳細

主要成果

Sika AGは、トルコの接着剤およびシーリング材大手Akkimの買収手続きを完了しました。この戦略的買収により、Sikaは東欧、中央アジア、中東、北アフリカといった重要な成長市場における事業基盤を大きく強化し、特に建設化学品分野での製品ポートフォリオと市場アクセスを大幅に拡大します。

技術・臨床詳細

Akkimは、幅広い接着剤、シーリング材、ポリウレタンフォーム、建築化学品を製造しており、2025年には約2億2000万スイスフランの純売上高を達成しています。SikaはAkkimの買収を通じて、同社の革新的な製品技術と広範な流通ネットワークを獲得しました。これにより、Sikaは高成長を続けるトルコ市場に加え、周辺地域における顧客への提供価値を高め、供給能力を最適化することが可能になります。

背景・業界文脈

トルコは、建設市場の活況と産業の多様化により、接着剤およびシーリング材にとって魅力的な成長市場です。Akkimの強力な地域プレゼンスと技術力は、Sikaのグローバル戦略における重要な空白を埋めるものです。この買収は、Sikaが以前から進めてきた持続的な成長戦略の一環であり、特定の地理的市場でのリーディングポジションを確立し、その地域の顧客ニーズに合わせたソリューションを提供する能力を強化する狙いがあります。

今後の展望

SikaはAkkimの統合を通じて、シナジー効果を最大化し、高付加価値製品の提供を加速する計画です。特に、環境に配慮した建築ソリューションや、エネルギー効率の高いシーリング材などへの需要が高まる中で、両社の技術と市場知識の融合は、新たなビジネス機会を創出すると見込まれます。この買収は、Sikaがグローバルリーダーとしての地位をさらに盤石にする上で、重要なマイルストーンとなります。

元記事:

https://plasticker.de/Plastics_News_49225_Sika_Acquisition_of_Turkish_Adhesives_and_Sealants_

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#03 Q.E.P. CO., INC.がSpray-Lockを買収、低VOCスプレー接着剤の製造プラットフォームを拡充

公開日 2026年09月08日　Q.E.P. CO., INC.　アメリカ



概要

Q.E.P. CO., INC.は、床材・壁材用プレミアムエアゾールスプレー接着剤メーカーであるSpray-Lock, Inc.の主要資産を買収しました。この買収により、QEPはSpray-Lock独自の特許技術、配合、専門知識を既存の床材施工ソリューションに統合し、特に高級ビニールタイルやカーペットタイル向けの製品ラインアップを強化します。Spray-Lockの低VOC水性配合接着剤は、従来の施工方法に比べて使用量を削減し、効率的かつ環境に優しい施工を可能にします。

詳細

主要成果

Q.E.P. CO., INC.は、床材および壁材用プレミアムエアゾールスプレー接着剤の開発・製造・販売を手掛けるSpray-Lock, Inc.の資産を実質的にすべて買収しました。この戦略的買収により、QEPは独自の特許技術と革新的な配合専門知識を自社の床材施工ソリューションに組み込み、市場での競争力を大幅に向上させます。

技術・臨床詳細

Spray-Lockの製品は、特に低VOC（揮発性有機化合物）の水性配合を特徴としており、従来の施工方法と比較して接着剤の使用量を減らしながらも高い接着性能を発揮します。エアゾールスプレー形式であるため、施工が迅速かつ容易になり、作業効率の向上と現場での廃棄物削減に貢献します。この技術は、高級ビニールタイル（LVT）やカーペットタイルなど、多様な床材および壁材の施工に対応し、広範なアプリケーションでの採用が見込まれます。

背景・業界文脈

近年、建設業界では環境規制の強化と持続可能性への意識の高まりから、低VOC製品の需要が増加しています。また、施工時間の短縮と効率化は、建設プロジェクトのコスト削減と生産性向上に直結するため、スプレー式接着剤のような革新的な施工方法が注目されています。QEPの今回の買収は、このような市場のトレンドに対応し、同社が提供する製品ポートフォリオを環境性能と施工効率の両面で強化するものです。

今後の展望

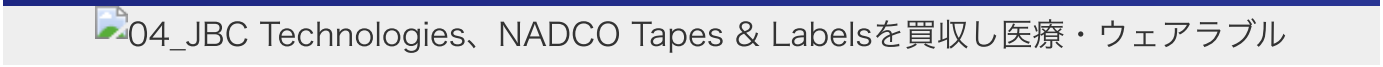
Spray-Lockの技術とブランドがQEPの広範な流通ネットワークと顧客基盤に加わることで、市場浸透が加速し、売上拡大に貢献すると期待されます。QEPは、この買収を通じて、環境に優しく効率的な接着剤ソリューションのリーダーとしての地位を確立し、商業および住宅分野における床材施工の未来を形作っていくでしょう。また、独自の特許技術は、今後の製品開発においても重要な資産となります。

元記事: https://www.qep.com/blogs/news/qep-acquires-spray-lock%C2%AE-expanding-its-

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#04 JBC Technologies、NADCO Tapes & Labelsを買収し医療・ウェアラブル向け接着部品事業を拡大

公開日 2026年09月10日　Packaging Gateway　アメリカ



概要

オハイオ州を拠点とするJBC Technologiesは、フロリダ州の製造会社NADCO Tapes & Labelsを買収しました。この買収により、JBCのカスタムテープ、ラベル、接着部品、特殊加工事業が拡大し、特に医療機器やウェアラブルデバイス向けの印刷部品を含む幅広い用途に対応できるようになります。NADCOのサラソタ工場は、統合された事業の南東部における主要製造拠点として稼働を継続し、地理的リーチと生産能力を強化します。

詳細

主要成果

JBC Technologiesは、フロリダ州に拠点を置く製造会社NADCO Tapes & Labelsの買収を完了しました。この戦略的統合により、JBCのカスタムテープ、ラベル、接着部品、および特殊加工の事業範囲が大幅に拡大され、特に医療機器やウェアラブルデバイスなどの高精度な要件を持つ市場への提供能力が強化されます。

技術・臨床詳細

NADCO Tapes & Labelsは、医療用およびウェアラブルデバイスに用いられる高機能な印刷部品、カスタムテープ、ラベルの製造に特化しており、精密なダイカッティングや接着剤の選定に関する専門知識を有しています。JBC Technologiesは、この買収によってNADCOの技術と生産能力を取り込むことで、クリーンルーム環境での製造、生体適合性材料の加工、厳しい品質基準を満たす製品供給が可能になります。これにより、顧客はより複雑で専門的な接着ソリューションを一貫して提供されることになります。

背景・業界文脈

医療機器およびウェアラブルデバイス市場は、診断、治療、健康モニタリングの進化に伴い急速に成長しており、これらの製品には高い信頼性、耐久性、そしてしばしば生体適合性が求められます。接着剤やテープは、これらのデバイスの小型化、軽量化、機能統合において不可欠な要素であり、カスタマイズされた精密加工技術が求められています。JBC Technologiesの買収は、この高成長市場における需要に応え、製品のイノベーションとサプライチェーンの効率化を図るものです。

今後の展望

NADCOのサラソタ工場は、JBC Technologiesの南東部における主要な製造ハブとして機能し続けることで、地理的な顧客サービスと供給能力が向上します。この統合により、JBCは医療、ヘルスケア、ウェアラブル技術分野の顧客に対し、より包括的なソリューションを提供できるようになり、これらの高成長市場での市場シェア拡大とリーダーシップの強化を目指します。また、両社の技術と専門知識の融合は、将来的な製品開発と市場開拓においても重要なシナジーを生み出すでしょう。

元記事: https://www.packaging-gateway.com/news/jbc-technologies-nadco-tapes-labels/

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#05 Caly Technologies、パワーエレクトロニクス向けTIM選定ガイド発表 — SiC・GaNデバイスの熱管理を最適化

公開日 2026年09月03日　Alibaba Electronics　中国



概要

Caly Technologiesは、パワーエレクトロニクス向けの熱界面材料（TIM）選定ガイドを発表し、SiCハーフブリッジモジュールやGaN FETなどの高性能デバイスにおける熱管理の最適化を支援します。このガイドでは、熱伝導性グリース、熱パッド、相変化材料、銀焼結/グラフェンスプレッダーなど、様々なTIMの特性と適用条件を解説しており、特に車載用AEC-Q200準拠や15年以上の寿命、10,000回以上の熱サイクルが求められる用途では、銀焼結/グラフェンスプレッダーが最高の性能を発揮すると強調されています。適切なTIMの選択は、デバイスの信頼性向上と長期的な性能維持に不可欠です。

詳細

主要成果

Caly Technologiesは、パワーエレクトロニクス用途における熱界面材料（TIM）の最適な選定を支援するガイドを公開しました。このガイドは、SiC（炭化ケイ素）ハーフブリッジモジュールやGaN（窒化ガリウム）FETなどの次世代パワーデバイスの冷却効率と信頼性を最大化するための重要な知見を提供します。

技術・臨床詳細

ガイドでは、市場で利用可能な主要なTIMタイプとして、熱伝導性グリース、熱パッド、相変化材料（PCM）、そして最先端の銀焼結およびグラフェンスプレッダーが詳細に分析されています。これらの材料は、それぞれ異なる熱伝導率、安定性、および加工要件を持ちます。特に、自動車用途で求められるAEC-Q200準拠、15年以上の長寿命、および10,000回以上の熱サイクル耐性といった厳しい要件に対しては、銀焼結材料やグラフェンスプレッダーが最も優れた熱管理性能を発揮すると強調されています。これらの材料は、熱抵抗を最小限に抑え、デバイスのジャンクション温度を安全範囲内に維持することで、長期的な動作信頼性を保証します。

背景・業界文脈

パワーエレクトロニクスは、電気自動車、再生可能エネルギーシステム、産業用モーター制御など、様々な分野で不可欠な技術であり、SiCやGaNといった広バンドギャップ半導体の採用により、高効率化・高密度化が進んでいます。しかし、これによりデバイスから発生する熱量も増加し、熱管理はデバイスの性能と信頼性を左右する最も重要な課題の一つとなっています。不適切な熱管理は、デバイスの故障率を高め、寿命を短縮させる原因となります。Caly Technologiesのガイドは、この複雑な課題に対し、実践的な解決策を提供します。

今後の展望

このTIM選定ガイドは、パワーエレクトロニクス設計者やエンジニアが、特定のアプリケーション要件に基づいて最適な熱管理ソリューションを選択する上で貴重なリソースとなります。特に、高信頼性が求められる車載用や産業用アプリケーションにおいて、適切なTIMの選択が製品の市場競争力を高める鍵となるでしょう。今後もSiCやGaNデバイスの普及が進むにつれて、より高性能で耐久性の高いTIMへの需要は増大し続けると予想されます。

元記事: https://electronics.alibaba.com/buyingguides/power-electronics-thermal-management-guide

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#06 Cambium、航空宇宙・防衛向け315°C超耐熱ラミネートフィルム接着剤「ApexFrame 5000」を発表

公開日 2026年09月03日　PR Newswire (via Cambium)　アメリカ



概要

先進材料開発企業Cambiumは、高温環境下での接着用途に特化したフタロニトリル系フィルム接着剤「ApexFrame™ 5000」を発表しました。この新製品は、航空宇宙、宇宙、防衛分野の厳しい要求に応えるべく設計されており、315°C（600°F）までの持続的な動作温度と、最大427°C（800°F）までの短時間動作性能を提供します。ポリマーフィルムと金属箔の高温非構造接着に理想的であり、極限環境下でのデバイスやコンポーネントの信頼性向上に貢献します。

詳細

主要成果

先進材料開発企業Cambiumは、極めて高い温度環境での接着用途向けに設計された革新的なフタロニトリル系フィルム接着剤「ApexFrame™ 5000」を発表しました。この新製品は、航空宇宙、宇宙、防衛といった要求の厳しい分野での高性能ボンディングニーズに応えるもので、持続的に315°C（600°F）まで、短時間であれば最大427°C（800°F）までの耐熱性を提供します。

技術・臨床詳細

ApexFrame™ 5000は、フタロニトリル系の高分子化学を基盤としており、その分子構造により卓越した熱安定性と機械的強度を実現しています。特に、ポリマーフィルムと金属箔といった異なる材料間の高温非構造接着に最適化されており、高温での長期的な接着信頼性が求められる部品において、その真価を発揮します。このフィルム接着剤は、従来の高温接着剤では性能維持が困難であった環境下でも、安定した性能を提供することで、コンポーネントの寿命と信頼性を向上させます。

背景・業界文脈

航空宇宙、宇宙、防衛産業では、ジェットエンジン、ミサイルシステム、衛星コンポーネントなど、極めて高い動作温度に曝される部品が数多く存在します。これらの用途では、部品間の接合に用いる接着剤にも同様の極限的な耐熱性と耐久性が要求されます。従来の接着剤では、このような厳しい環境下で性能が低下したり、故障の原因となることが課題でした。CambiumのApexFrame™ 5000は、このギャップを埋めるものであり、次世代の高温耐性コンポーネント開発を可能にします。

今後の展望

ApexFrame™ 5000の登場は、高温環境下で動作する電子機器、センサー、構造部品などの設計に新たな可能性をもたらします。この接着剤は、より小型で軽量、かつ高性能なシステムの開発に貢献し、航空宇宙、宇宙、防衛技術のさらなる進化を加速させるでしょう。Cambiumは、この製品を通じて、高成長市場におけるリーダーシップを強化し、極限環境での材料ソリューションにおける新たな標準を確立することを目指しています。

元記事: https://www.prnewswire.com/news-releases/cambium-launches-apexframe-5000-a-high-temperature-laminating-film-adhesive-for-demanding-bonding-applications-302868220.html

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#07 CHT-Silicones、電子ポッティング・封止向け2液性低可燃性シリコーンエラストマー「Silso protect 21190 A/B」を発表

公開日 2026年09月06日　CHT-Silicones　ドイツ



概要

CHT-Siliconesは、電子ポッティングおよび封止用途向けに設計された2液性シリコーンエラストマーシステム「Silso protect 21190 A/B」を発表しました。この製品は、化学薬品、環境汚染、機械的衝撃、振動などから電子部品を強力に保護すると同時に、特に低可燃性が求められるアプリケーションでの使用を可能にします。バッテリー/パワーモジュール、太陽光発電モジュールのジャンクションボックス、LED照明電源のポッティングなど、多岐にわたる用途に適しており、過酷な環境下での電子デバイスの長期信頼性向上に貢献します。

詳細

主要成果

CHT-Siliconesは、電子ポッティングおよび封止用途向けに特化して開発された2液性シリコーンエラストマーシステム「Silso protect 21190 A/B」を発表しました。この新しい材料は、電子部品を化学薬品、環境汚染、機械的衝撃、および振動から効果的に保護し、さらに低可燃性を必要とするアプリケーションでの使用に適しています。

技術・臨床詳細

Silso protect 21190 A/Bは、混合すると室温で硬化する流動性の高い液状シリコーンゴムです。このシステムは、優れた電気絶縁特性と熱安定性を備え、-50°Cから+180°Cまでの幅広い温度範囲で安定した性能を維持します。特に注目すべきは、その低可燃性特性であり、電子デバイスの安全性を高めます。また、低い粘度は複雑な形状の部品への充填を容易にし、ポッティング時のボイド発生リスクを低減します。この特性は、バッテリー/パワーモジュール、太陽光発電モジュールのジャンクションボックス、LED照明電源など、多様な電子デバイスの信頼性と耐久性を向上させるのに役立ちます。

背景・業界文脈

現代の電子デバイスは、より小型化、高集積化、高機能化が進む一方で、過酷な環境条件下での動作が要求されることが増えています。これに伴い、湿気、粉塵、化学物質、熱、機械的ストレスから敏感な電子部品を保護する高品質な封止材の重要性が高まっています。特に、バッテリーシステムやパワーエレクトロニクス、LED照明などでは、発熱による火災リスクを低減するため、低可燃性材料への需要が顕著です。Silso protect 21190 A/Bは、これらの市場ニーズに直接応える製品として開発されました。

今後の展望

Silso protect 21190 A/Bの登場は、高信頼性が求められる電子機器の設計と製造に新たな選択肢を提供します。特に、電気自動車、再生可能エネルギー、産業用制御システムなど、安全性と耐久性が最優先される分野での採用が期待されます。CHT-Siliconesは、この革新的な製品を通じて、電子機器の長期的な性能維持と安全確保に貢献し、市場でのリーダーシップを強化することを目指しています。

元記事: https://cht-silicones.com/product-tds/SILSO-PROTECT-21190-AB

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#08 Smart High TechがHenkel Venturesから約1050万ドルを調達、グラフェン冷却材「GT-TIM」の生産拡大へ

公開日 2026年09月08日　Graphene-Info　イスラエル



概要

Smart High Tech (SHT)は、Henkel Venturesから約1050万ドル（約15億円）の資金調達に成功し、同社のグラフェン強化熱界面材料（TIM）「GT-TIM」の生産規模を大幅に拡大すると発表しました。Henkel Venturesはこの資金調達ラウンドにおける主要な戦略的投資家となり、調達資金はスウェーデンと中国にあるSHTの製造拠点の生産能力拡張と効率改善に充てられます。GT-TIMは、電子機器の熱管理において画期的な性能を発揮する特許取得済みの材料であり、今回の投資は次世代電子デバイスの冷却技術進化を加速させるでしょう。

詳細

主要成果

Smart High Tech (SHT)は、大手化学メーカーHenkelのベンチャーキャピタル部門であるHenkel Venturesから約1050万ドル（約15億円）の資金調達を確保しました。この資金は、SHTが特許を持つグラフェン強化熱界面材料（TIM）「GT-TIM」の生産規模を飛躍的に拡大するために活用されます。

技術・臨床詳細

GT-TIMは、グラフェンの高い熱伝導性を活用した革新的な熱界面材料であり、電子デバイスから発生する熱を効率的にヒートシンクへ伝達することで、デバイスの性能と寿命を向上させます。従来のTIMと比較して、グラフェン強化により熱伝導率が大幅に改善され、より薄い層で効果的な冷却を実現します。今回の資金調達により、SHTはスウェーデンと中国に位置する既存の製造施設の生産能力を拡張し、プロセス効率を向上させることで、急増する需要に対応できる体制を構築します。Henkel Venturesは、2025年7月に発表されたHenkelとSHTの戦略的パートナーシップに続く投資であり、技術と市場の両面での連携を深めるものとなります。

背景・業界文脈

人工知能（AI）、高性能コンピューティング（HPC）、5G通信といった分野の急速な発展に伴い、電子デバイスの集積度と動作周波数は高まる一方です。これにより、デバイスから発生する熱量も増大し、熱管理は性能ボトルネックと信頼性低下の主要因となっています。高性能TIMは、この熱課題を解決し、次世代電子デバイスの潜在能力を最大限に引き出すために不可欠な材料です。グラフェンをベースとしたSHTのGT-TIMは、この分野における画期的なソリューションとして注目されています。

今後の展望

Henkel Venturesからの今回の大型投資は、SHTがGT-TIMの商業化を加速させ、グローバル市場での競争力を強化する上で極めて重要です。生産能力の拡大は、EV、データセンター、モバイルデバイスなど、高性能冷却ソリューションが求められる幅広い産業への供給を可能にします。この提携は、グラフェン技術が電子機器の熱管理分野で新たな標準を確立し、持続的な技術革新を推進する強力な推進力となるでしょう。

元記事: https://www.graphene-info.com/smart-high-tech-secures-105-million-henkel-ventures-scale-graphene-cooling

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#09 2026年自動車産業、アルミニウム・複合材料向け構造用接着剤でアセンブリ効率と耐久性を革新

公開日 2026年09月08日　B8X　ドイツ



概要

2026年の自動車産業では、軽量材料の採用拡大に伴い、アルミニウムや複合材料向けに最適化された高性能接着剤が、車体アセンブリの効率と耐久性を劇的に向上させています。これらの構造用接着剤は、優れた接着強度と柔軟性を兼ね備え、耐腐食性や硬化時間の短縮といった追加メリットを提供します。また、EVのバッテリーパックや太陽電池パネル、風力タービンブレードなどの新エネルギーシステムにおいても、機械的・環境的ストレスに耐える接着剤が信頼性と効率性を高める上で不可欠であり、自動車製造における接着技術が新たな標準を確立しています。

詳細

主要成果

2026年の自動車産業において、軽量材料の採用増加は、これら異種材料向けに特化設計された高性能接着剤の重要性をかつてなく高めています。特に、アルミニウムや複合材料に対応する構造用接着剤は、自動車のアセンブリプロセスを革新し、車両の全体的な効率性と耐久性を大幅に向上させています。

技術・臨床詳細

これらの先進的な構造用接着剤は、従来の溶接や機械的固定具と比較して、優れた接着強度と柔軟性を同時に提供します。これにより、応力分布が均一になり、材料疲労が軽減されるため、車両の長期的な構造的完全性が向上します。また、接着剤は異なる金属間の電位差腐食のリスクを低減し、硬化時間の短縮により生産ラインの効率を向上させるという追加の利点ももたらします。新エネルギーシステムでは、EVバッテリーパックの封止、太陽電池パネルの固定、風力タービンブレードの接合など、耐久性と機械的・環境的ストレスに耐える接着剤が、システムの信頼性と効率性を高める上で不可欠な役割を担っています。

背景・業界文脈

自動車産業は、燃費向上と排出ガス削減、そして電気自動車（EV）への移行に伴い、車両の軽量化を強力に推進しています。このため、高強度鋼からアルミニウム合金や炭素繊維複合材料への移行が加速していますが、これらの材料の接合は従来の技術では困難でした。高性能接着剤は、異種材料接合の課題を解決し、部品点数の削減や設計の自由度向上にも貢献しています。さらに、EVバッテリーや再生可能エネルギー発電装置における接着技術は、安全性と性能の鍵を握る要素となっています。

今後の展望

自動車における接着技術は、単なる固定手段から、車両の構造、安全性、性能を決定する戦略的要素へと進化しています。今後、自動運転技術の進展やさらなる軽量化ニーズの高まりにより、より高度な接着剤ソリューションが求められるでしょう。耐衝突性、熱管理、センシング機能を持つ接着剤の開発など、多機能化への動きが加速すると予想され、自動車製造の未来を形作る上で不可欠な技術であり続けるでしょう。

元記事: https://www.b8xbond.com/news/read/1083.html

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#10 CTX Thermal Solutions、5G・EV・医療向けに熱パッド・グラファイト箔などTIMポートフォリオを拡充

公開日 2026年09月10日　SJN (Semiconductor Journal Network)　アメリカ



概要

CTX Thermal Solutionsは、電子部品の放熱効率を向上させる熱界面材料（TIM）のポートフォリオを拡大しました。これにより、5G通信インフラ、電気自動車（EV）向けLEDモジュール、再生可能エネルギー用インバーター、医療技術の高性能プロセッサなど、多岐にわたる高発熱アプリケーションの熱管理課題に対応します。新たな製品には、高性能熱パッド、ギャップフィラー、グラファイト箔などが含まれ、これらはヒートシンクと電子部品間の熱接触抵抗を最小限に抑え、電力損失を削減し、トラブルフリーな動作を実現するために不可欠です。

詳細

主要成果

CTX Thermal Solutionsは、電子部品の熱管理を最適化するため、熱界面材料（TIM）の製品ポートフォリオを大幅に拡充しました。この拡張により、同社は5G通信機器、電気自動車（EV）向けLEDモジュール、再生可能エネルギー用インバーター、医療技術分野の高性能プロセッサなど、高発熱を伴う多様なアプリケーションの熱管理ニーズに対応する能力を強化します。

技術・臨床詳細

拡充されたTIMポートフォリオには、さまざまな物理的特性と熱伝導率を持つ製品が含まれています。これらには、優れた熱伝導性を持ちながら柔軟性に富む熱パッド、不規則なギャップを埋めるためのギャップフィラー、そして高い熱伝導性と電気絶縁性を兼ね備えたグラファイト箔などが含まれます。これらのTIMは、発熱する電子部品とヒートシンク間の微細な空気層や不完全な接触面を効果的に埋めることで、熱接触抵抗を最小限に抑え、熱伝導効率を最大化します。結果として、電力損失が低減され、電子デバイスのジャンクション温度が抑制されることで、長期的な信頼性とトラブルフリーな動作が保証されます。

背景・業界文脈

現代の電子デバイスは、小型化と高集積化が加速しており、それに伴い単位面積あたりの発熱量が増大しています。特に5G基地局、EVのパワーエレクトロニクス、高性能AIプロセッサ、医療画像処理装置などでは、効率的な熱管理がデバイスの性能、信頼性、寿命を決定づける重要な要素となっています。不適切な熱管理は、性能低下、誤動作、さらにはデバイスの早期故障につながるため、高性能TIMの需要は市場全体で高まっています。

今後の展望

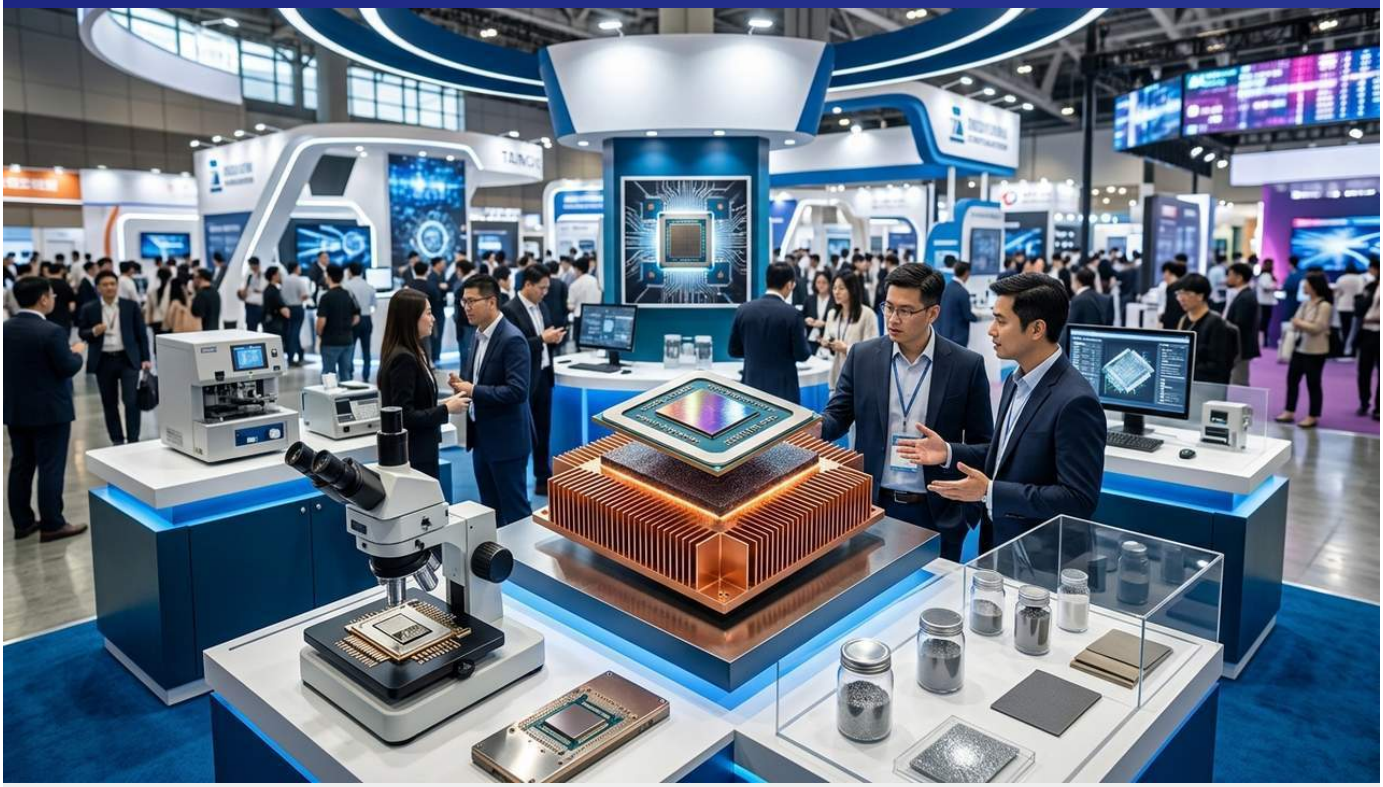
CTX Thermal SolutionsによるTIMポートフォリオの拡充は、高まる熱管理ソリューションへの需要に応えるものであり、同社の市場での競争力を高めるでしょう。これらの先進的なTIMは、次世代の電子機器が直面する熱課題を解決し、より高性能で信頼性の高い製品の開発を可能にします。今後も、新興技術分野でのアプリケーション拡大に伴い、TIMの性能と多様性への要求は増大し続けると予想され、CTX Thermal Solutionsはこれに対応する革新的なソリューションを提供し続けるでしょう。

元記事: https://www.sjn.com/pr/index.php/action::detail/id::1789029287/theme::default

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#11 Indium Corporation、SEMICON TaiwanでAI向け高熱伝導性焼結ペースト・TIMなど先端材料を展示

公開日 2026年09月10日　Indium Corporation　アメリカ



概要

Indium Corporationは、SEMICON Taiwan 2026において、AI技術を可能にする異種統合およびアセンブリ（HIA）製品と、画期的な熱界面材料（TIM）を含む革新的な材料群を展示します。特に、優れた熱放散と高い熱伝導率を提供するはんだTIM、SiCダイアタッチ用の高金属低有機物含有InFORCE®MF圧力Ag焼結ペースト、高熱伝導率InBAKE™29 Cu焼結ペーストが紹介されます。また、200ミクロン以上の反りを持つ大型ダイに対応する圧縮可能な非リフロー金属TIM「Heat-Spring® HSx」も展示され、AI半導体の性能向上と信頼性確保に貢献します。

詳細

主要成果

Indium Corporationは、SEMICON Taiwan 2026において、人工知能（AI）技術の進展を支えるための革新的な材料ソリューションを多数展示します。特に、異種統合およびアセンブリ（HIA）に特化した製品群と、先進的な熱界面材料（TIM）が注目され、AI半導体の高性能化と信頼性向上に不可欠な技術が披露されます。

技術・臨床詳細

展示される主要製品には、以下のようなものがあります。

- **はんだTIM:** 優れた熱放散能力と高い熱伝導率（詳細な数値は未公表だが、業界最高水準を目指す）を提供し、高発熱するAIプロセッサの効率的な冷却を実現します。
- **InFORCE®MF圧力Ag焼結ペースト:** SiC（炭化ケイ素）パワーデバイスのダイアタッチ用に開発され、高金属含有量と低有機物含有量により、高い信頼性と熱伝導性を実現します。圧力焼結により、ボイドを削減し、強固な接合を形成します。
- **InBAKE™29 Cu焼結ペースト:** 高熱伝導率を誇る銅焼結ペーストで、特に高温動作が要求されるアプリケーションでの性能向上に寄与します。
- **Heat-Spring® HSx:** 200ミクロン以上の反りを持つ大型ダイにも対応可能な、圧縮性の非リフロー金属TIMです。物理的な圧力を利用して優れた熱接触を実現し、接触抵抗を最小限に抑えることで、大規模なAIチップの安定動作を支えます。

これらの材料は、AI半導体の高集積化と高発熱化に対応し、システムの熱管理におけるボトルネックを解消することを目指しています。

背景・業界文脈

AIおよび高性能コンピューティング（HPC）の進化は、半導体チップの計算能力と電力消費を劇的に増加させています。これにより、チップレベルでの熱管理が最も重要な課題の一つとなっており、従来の材料では対応が困難になりつつあります。異種統合技術（HIA）は、異なる機能を持つ複数のダイを一つのパッケージに統合することで性能を向上させますが、ここでも材料間の熱膨張係数のミスマッチや熱伝導性の確保が課題となります。Indium Corporationの提供するソリューションは、これらの課題に直接対処し、次世代AIチップの実現を可能にします。

今後の展望

Indium Corporationのこれらの革新的な材料は、AI半導体市場における熱管理とパッケージングの新しい標準を確立する可能性を秘めています。特に、焼結ペーストの進化は、パワーエレクトロニクスや高周波デバイスの信頼性向上にも寄与し、幅広い産業分野での採用が期待されます。SEMICON Taiwanでの展示は、これらの技術がAIエコシステム全体に与える影響の大きさを強調するものであり、今後の技術革新の方向性を示す重要な一歩となるでしょう。

元記事: https://www.indium.com/blog/indium-corporation-to-showcase-innovative-materials-enabling-ai-technology-at-semicon-taiwan/

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#12 HakTak、EVバッテリー・インバーター熱管理を最適化するサーマルパテの活用法を解説

公開日 2026年09月09日　HakTak　アメリカ



概要

HakTakは、電気自動車（EV）のバッテリーおよびインバーターシステムにおける熱管理の最適化に、サーマルパテの活用が不可欠であると解説しました。サーマルパテは、不均一なギャップを埋めるのに理想的な熱界面材料（TIM）であり、熱源と冷却表面間の空気層を効率的な熱伝導経路に置き換えることで、過熱を防ぎ、デバイスの長期信頼性を高めます。適切な製品を選択するためには、ギャップ、圧力、熱経路、硬化メカニズム、塗布方法、厚さ、最終機械的特性などを総合的に考慮することが重要です。

詳細

主要成果

HakTakは、電気自動車（EV）のバッテリーおよびインバーターシステムにおける熱管理の最適化に、サーマルパテが極めて有効な熱界面材料（TIM）であることを強調しました。サーマルパテは、部品間の不均一なギャップに完全に適合し、熱源から冷却表面への効率的な熱伝導経路を確立することで、システムの性能と信頼性を向上させます。

技術・臨床詳細

サーマルパテは、熱源（例：EVバッテリーセル、インバーターコンポーネント）と冷却表面（例：ヒートシンク、冷却プレート）の間に存在する空気層を、より熱伝導性の高い材料に置き換える役割を果たします。空気は熱伝導率が低いため、効果的な熱伝達を妨げますが、サーマルパテは密着性に優れ、不規則な表面形状にも追従することで、熱抵抗を最小限に抑えます。製品を選択する際には、以下の要素を慎重に検討する必要があります。

- **ギャップのサイズと形状:** パテが埋めるべきギャップの寸法と複雑さ。
- **印加圧力:** 組み立て時に加えられる圧力。
- **熱経路の要件:** 必要な熱伝導率と熱抵抗。
- **硬化メカニズムと塗布方法:** ワンショットディスペンスやスクリーン印刷など、製造プロセスに適した硬化方法（例：熱硬化、UV硬化）と塗布方法。
- **材料の厚さ:** 最適な性能を発揮するための推奨されるパテ層の厚さ。
- **最終的な機械的特性:** 振動や熱サイクルに対する耐久性。

これらの特性を適切に評価することで、EVバッテリーの過熱を防ぎ、安定した動作を確保することが可能になります。

背景・業界文脈

EV市場の成長に伴い、バッテリーパックとパワーエレクトロニクスの熱管理は、車両の航続距離、安全性、耐久性を決定する上で最も重要な課題の一つとなっています。バッテリーの熱暴走リスクを低減し、インバーターなどの高効率動作を維持するためには、効果的な熱放散が不可欠です。サーマルパテのような高性能TIMは、これらの厳しい熱管理要件を満たすためのコスト効率が高く、柔軟なソリューションとして注目されています。

今後の展望

HakTakの解説は、EV設計者や製造業者がサーマルパテを効果的に利用するための実践的な指針を提供します。今後、EV技術がさらに進化し、より高出力・高エネルギー密度のバッテリーが登場するにつれて、サーマルパテを含むTIMの役割はさらに重要になると予想されます。適切な材料選定と適用は、次世代EVの安全性、性能、信頼性の向上に直接貢献し、市場競争力を高める鍵となるでしょう。

元記事: https://haktak.com/thermal-putty-ev-battery-inverter-systems/

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#13 Apple 2nm iPhone 18発表、Samsungが封止材とTIM改良で熱抵抗16%削減しTSMCと競争激化

公開日 2026年09月10日　BigGo Finance　韓国



概要

Appleが2nmプロセス採用のiPhone 18を発表したことを受け、Samsung ElectronicsとTSMCは、次世代半導体パッケージングと熱管理技術で激しい競争を繰り広げています。Samsungは、高性能エポキシモールディングコンパウンド（EMC）と、ボンディング信頼性を向上させた新しい熱界面材料（TIM）を採用することで、内部熱抵抗を最大16%削減しました。この技術革新は、Sumitomo Bakeliteの「Sumikon EME」などの日本の半導体封止材メーカーの貢献も大きく、高熱伝導性、低反りなどの特性が2nmチップの安定動作と高歩留まりに不可欠となっています。

詳細

主要成果

Appleが2nmプロセス技術を用いたiPhone 18を発表したことで、半導体業界は新たな競争局面に突入しました。この中で、Samsung Electronicsは、高性能なエポキシモールディングコンパウンド（EMC）とボンディング信頼性を高めた新型熱界面材料（TIM）を導入することで、チップの内部熱抵抗を最大16%削減するという画期的な成果を達成し、TSMCとの先進パッケージング競争を激化させています。

技術・臨床詳細

Samsung Electronicsが採用した高性能EMCは、チップを外部環境から保護し、機械的ストレスを軽減する上で重要な役割を果たします。特に、内部熱抵抗を16%削減したTIMは、チップと冷却機構間の熱伝達効率を大幅に向上させ、2nmという極めて微細なプロセスで製造されたチップの発熱問題に対応します。この技術革新は、高熱伝導性、低反り、低熱膨張係数（CTE）などの特性を持つ日本の半導体封止材メーカー、例えば住友ベークライトの「Sumikon EME」のような製品群に支えられています。これらの材料は、次世代半導体の複雑なパッケージ構造において、チップの安定動作と製造歩留まりの向上に不可欠です。

背景・業界文脈

AIや高性能コンピューティング（HPC）の需要が爆発的に増加する中、半導体チップはさらなる小型化、高集積化、高機能化が求められています。これに伴い、チップの発熱量は増大し、熱管理はチップの性能と信頼性を左右する最も重要な課題となっています。特に、2nmのような最先端プロセス技術では、わずかな熱ストレスが性能低下や故障につながるため、パッケージング材料と熱界面材料の役割が決定的に重要です。SamsungとTSMCの競争は、単なるプロセス技術だけでなく、パッケージングと熱管理を含む総合的なソリューション能力の競争へと移行しています。

今後の展望

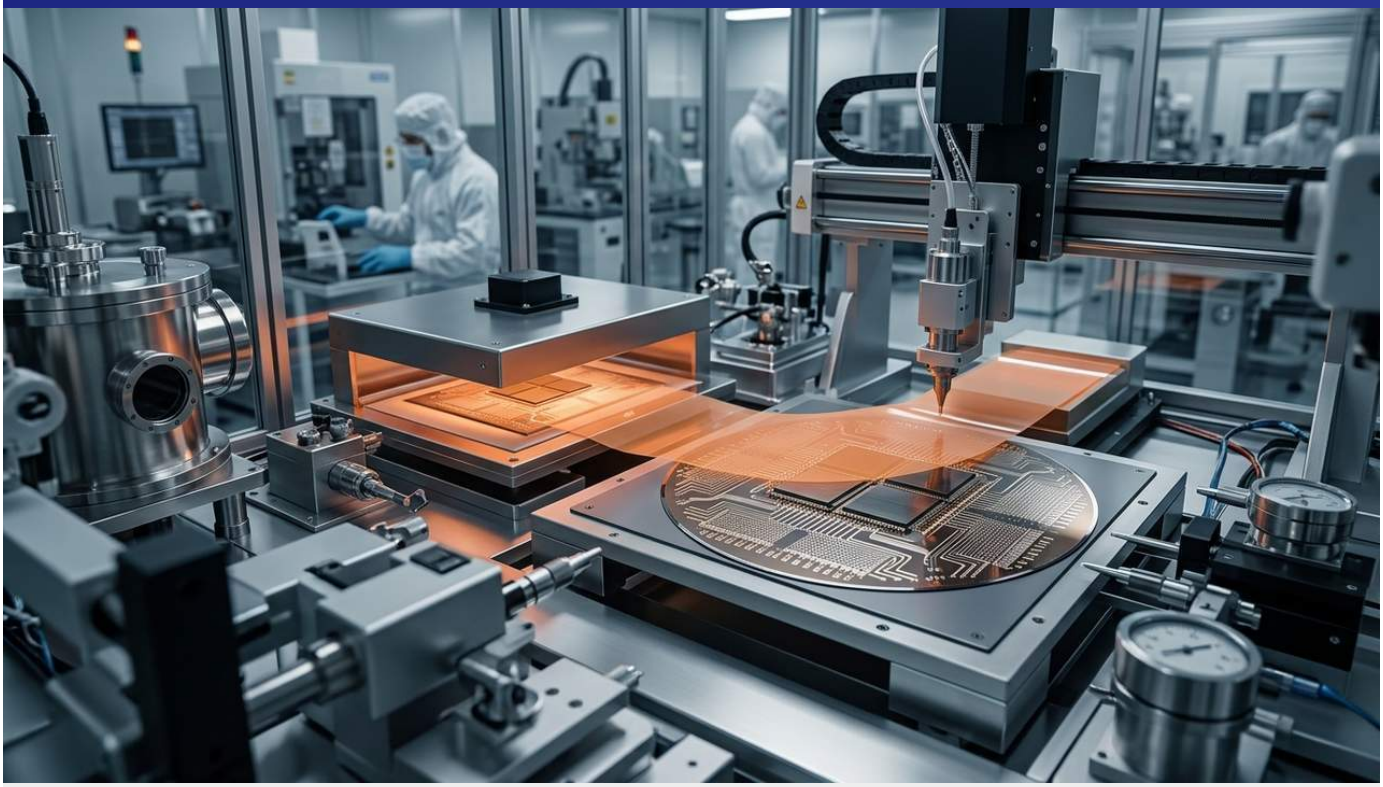
Samsungの今回の発表は、先進パッケージング材料が次世代半導体、特にAIチップの性能を左右する主要な要素であることを明確に示しました。熱抵抗の16%削減は、2nmチップのさらなる高性能化と量産安定性確保に大きく貢献するものであり、今後、他の半導体メーカーも同様の材料技術革新を加速させるでしょう。日本の材料メーカーは、この分野で引き続き重要な役割を担い、グローバルな半導体産業のエコシステムにおいてその存在感を高めていくと予想されます。

元記事: https://finance.biggo.com/news/46eeaae1-4f03-4a4c-85b4-9605ef3782c7

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#14 AZoMがポリイミドの半導体パッケージングにおける役割を解説—HBM・チップレット向けRDLに不可欠

公開日 2026年09月08日　AZoM　イギリス



概要

AZoMは、半導体パッケージングにおけるポリイミドの不可欠な役割を解説しました。ポリイミドは、デバイスとパッケージ間の薄膜界面において、絶縁、接着、パターン定義、応力制御を同時に実現する多機能材料です。特に再配線層（RDL）構造において、ポリイミドフィルムは電気絶縁の基盤として機能し、チップの入出力接続を微細なピッチで配置することを可能にします。高い温度耐性、化学処理への抵抗性、硬化・封止・熱サイクル後も接着を維持する能力が、HBMやチップレットなどの先進パッケージングの信頼性を確保する上で極めて重要です。

詳細

主要成果

AZoMは、半導体パッケージング分野においてポリイミド材料が果たす多機能かつ不可欠な役割について深く掘り下げて解説しました。ポリイミドは、デバイスとパッケージ間の薄膜界面において、電気絶縁、強力な接着、精密なパターン定義、および効果的な応力制御を同時に実現する、比類なき材料です。

技術・臨床詳細

ポリイミドは、その卓越した耐熱性と化学的安定性により、半導体製造プロセスにおける様々な過酷な条件に耐えることができます。これには、高温硬化、化学エッチング、封止プロセス、その後の熱サイクルなどが含まれます。特に再配線層（RDL: Redistribution Layer）構造において、ポリイミドフィルムは電気絶縁の基盤として機能し、チップの入出力接続をより微細なピッチで、かつ効率的に再配置することを可能にします。この技術は、高密度な配線が要求されるHBM（High Bandwidth Memory）やチップレットパッケージングにおいて、信号整合性と電力供給の信頼性を確保する上で不可欠です。また、ポリイミドの柔軟性は、パッケージ全体の反りや熱機械的ストレスを緩和し、デバイスの長期信頼性に貢献します。

背景・業界文脈

現代の半導体デバイスは、ムーアの法則の限界に近づきつつあり、性能向上とコスト削減のために先進パッケージング技術の重要性が増しています。HBMやチップレットのような技術は、異なる機能を持つ複数のダイを緊密に統合することで、システムの性能と効率を向上させますが、これによりパッケージング材料にはより高い要求が課せられます。ポリイミドは、これらの新しいパッケージングアーキテクチャにおいて、その高性能特性から中心的な役割を担っており、特に高密度インターコネクトと熱機械的安定性の両立に貢献しています。

今後の展望

ポリイミドの継続的な進化は、次世代半導体パッケージング技術、特に2.5D/3D統合や異種統合の実現を加速させる鍵となります。材料開発者と半導体メーカーは、さらに優れた電気特性、熱機械的安定性、および加工性を備えたポリイミドの探索を続けるでしょう。この材料は、AIプロセッサ、高性能モバイルデバイス、データセンター向けチップなど、未来の電子機器の性能と信頼性を支える上で不可欠な存在であり続けます。

元記事: https://www.azom.com/article.aspx?ArticleID=25503

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#15 H.B. Fuller、2026年第3四半期決算を9月23日に発表へ

公開日 2026年09月09日　Business Wire / H.B. Fuller　アメリカ



概要

接着剤・シーラント大手H.B. Fuller Companyは、2026年8月29日に終了した第3四半期の決算を2026年9月23日に発表すると公表しました。翌日9月24日には投資家向け電話会議を開催し、業績について説明する予定です。同社は、革新的な機能性コーティング、接着剤、シーラントを通じて、幅広い製品の品質、安全性、性能向上に貢献しています。この発表は、同社の直近の財務状況と将来戦略を評価する重要な機会となります。

詳細

主要成果

H.B. Fuller Companyは、2026年8月29日締めの第3四半期の決算を2026年9月23日に発表すると公表しました。決算発表後、同社は2026年9月24日午前9時55分（米国中部時間）に投資家向け電話会議を開催し、その結果について詳細を説明する予定です。

技術・臨床詳細

H.B. Fullerは、接着剤、シーラント、および特殊化学品のグローバルリーダーであり、革新的な機能性コーティングを提供することで、日常的に使用される製品の品質、安全性、および性能を向上させています。同社の製品は、食品包装、医療機器、建設、自動車、電子機器など、多岐にわたる産業分野で不可欠な役割を担っています。特に、持続可能性と高性能を両立させる接着ソリューションの開発に注力しており、顧客の厳しい要求に応えるための研究開発を進めています。

背景・業界文脈

接着剤およびシーラント市場は、グローバル経済の成長と、特に軽量化、耐久性向上、および環境規制への対応を求める製造業のニーズによって牽引されています。H.B. Fullerは、この市場において長年の経験と広範な製品ポートフォリオを持ち、M&Aや戦略的パートナーシップを通じて事業を拡大してきました。第3四半期の決算発表は、同社が直面する市場環境の変化にどのように対応し、成長戦略を推進しているかを示す重要な指標となります。

今後の展望

今回の決算発表とそれに続く投資家向け電話会議は、アナリストや投資家にとって、H.B. Fullerの事業戦略、財務健全性、および将来の成長見通しを評価する上で重要な機会を提供します。特に、サプライチェーンの変動、原材料コスト、およびグローバルな経済状況が業績に与える影響について、経営陣からの洞察が期待されます。同社は、機能性接着剤のイノベーションを通じて、高成長市場での地位をさらに強化していく方針です。

元記事: https://www.businesswire.com/news/home/20260909066927/en/H.B.-Fuller-to-

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#16 ProLogium、第3.5世代全固体電池を量産開始 — エネルギー密度381 Wh/kgでEV航続距離を刷新

公開日 2026年09月09日　Electric Cars Report　台湾



概要

ProLogium Technologyは、台湾のギガファクトリーで第3.5世代リチウムセラミックバッテリー（LCB）の量産を開始したと発表しました。この全固体バッテリーは、重量エネルギー密度381 Wh/kgという画期的な性能を達成し、電気自動車（EV）の航続距離、充電速度、および全体的なバッテリー効率を劇的に向上させる可能性を秘めています。全固体バッテリーの量産開始は、EV産業にとって重要なマイルストーンであり、次世代モビリティへの移行を加速させます。

詳細

主要成果

ProLogium Technologyは、台湾のギガファクトリーにおいて、第3.5世代リチウムセラミックバッテリー（LCB）の量産を正式に開始しました。この全固体バッテリーは、重量エネルギー密度381 Wh/kgという優れた性能を誇り、電気自動車（EV）の航続距離の飛躍的な向上、充電時間の短縮、そしてバッテリー全体の効率性向上に大きく貢献することが期待されます。

技術・臨床詳細

ProLogiumの第3.5世代LCBは、従来の液系電解質を使用せず、セラミック固体電解質を採用することで、高いエネルギー密度と優れた安全性を両立しています。381 Wh/kgという重量エネルギー密度は、現在の主流であるリチウムイオンバッテリーと比較して高い数値であり、これによりEVはより長距離を走行できるようになります。さらに、固体電解質は熱暴走のリスクを低減するため、バッテリーの安全性も向上します。量産化されたバッテリーは、電気自動車メーカーへの供給が予定されており、次世代EVの性能基準を再定義する可能性を秘めています。

背景・業界文脈

全固体バッテリーは、EV業界の「ゲームチェンジャー」として長年期待されてきましたが、量産技術の確立が課題でした。ProLogiumの量産開始は、この課題を克服したことを示すものであり、同社が培ってきた独自の技術と製造プロセスが結実した形です。これにより、EV市場におけるバッテリー競争は新たな局面を迎え、より高性能で安全なバッテリーを求める市場のニーズに応えることができます。また、リチウムセラミックバッテリーは、材料調達の安定性やコスト面でも優位性を持つ可能性があり、サプライチェーン全体にポジティブな影響を与えるでしょう。

今後の展望

ProLogiumの第3.5世代LCBの量産開始は、EVの普及をさらに加速させ、消費者に魅力的な製品を提供するための重要なステップとなります。今後は、他のEVメーカーとの提携拡大や、さらなるエネルギー密度向上に向けた研究開発が推進されることが予想されます。この技術は、電気自動車だけでなく、ドローンや産業用ロボットなど、高エネルギー密度と安全性が必要とされる幅広いアプリケーションへの応用も期待されています。全固体バッテリーの実用化は、エネルギー貯蔵技術の未来を形作る上で不可欠な要素となるでしょう。

元記事: https://electriccarsreport.com/2026/09/prologium-starts-solid-state-battery-mass-production-with-381-wh-kg-energy-density/

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#17 LG Energy Solutionとソウル大学、LMRバッテリー大規模セル安定性でブレークスルー — コバルト低減とコスト競争力向上へ

公開日 2026年09月07日　Korea IT Times　韓国



概要

LG Energy Solutionとソウル大学の共同研究チームは、次世代リチウムマンガンリッチ（LMR）バッテリーにおける大容量セルの安定性を向上させる画期的な運用・製造条件を開発しました。この研究により、LMRバッテリーの主要な課題であったガス発生と容量劣化のメカニズムが解明され、コバルト使用量を低減しつつ高エネルギー密度とコスト競争力を両立させる商業化への道筋が明確になりました。今回の進展は、EVバッテリーの性能と持続可能性を飛躍的に向上させ、市場投入を加速させるものです。

詳細

主要成果

LG Energy Solutionとソウル大学の共同研究チームは、次世代リチウムマンガンリッチ（LMR）バッテリーの大規模セルにおける安定性を劇的に向上させる、革新的な運用および製造条件を開発しました。このブレークスルーは、これまでLMRバッテリーの商業化を阻んできた主要な課題、すなわちガス発生と容量劣化のメカニズムを詳細に解明したことに基づいています。これにより、コバルト使用量を大幅に低減しながらも、高エネルギー密度と優れたコスト競争力を両立するLMRバッテリーの商業化が大きく前進しました。

技術・臨床詳細

LMRバッテリーは、コバルトの含有量を減らし、より安価で豊富なマンガンを増やすことで、バッテリーコストを削減しつつ高いエネルギー密度を実現する次世代EVバッテリー技術として注目されています。しかし、大容量化する際に、サイクル寿命中に電解液と活物質の界面で発生するガスによりセルが膨張し、容量が劣化するという課題がありました。研究チームは、このガス発生と容量劣化の根本原因を特定し、電解液組成、充電プロファイル、およびセル製造プロセスにおける微細な調整を通じて、大規模LMRセルの長期安定性を確保する具体的なソリューションを導き出しました。特に、熱安定性の向上や低温環境下での性能維持にも寄与する技術が組み込まれています。

背景・業界文脈

電気自動車（EV）市場の拡大に伴い、バッテリーの性能、コスト、安全性、そして持続可能性は業界全体の喫緊の課題となっています。特にコバルトは、高コストで供給リスクがあり、倫理的な問題も指摘されるため、その使用量を減らすことはバッテリーメーカーにとって戦略的な優先事項です。LMRバッテリーは、このコバルト依存からの脱却を目指す主要な候補の一つであり、今回の安定性向上は、その実用化に向けた最大の障壁の一つを取り除いたと言えます。これは、バッテリー製造におけるコスト効率と環境負荷低減に大きく貢献し、EVの普及をさらに加速させるでしょう。

今後の展望

LG Energy Solutionは、今回の技術的ブレークスルーを基に、LMRバッテリーの商業生産に向けた最終段階の検証を進めることが予想されます。この安定性の向上は、電気自動車メーカーにとって、より手頃な価格で、より長距離を走行でき、より安全なEVを提供するための重要な要素となります。将来的には、LMRバッテリーが現在のNCM（ニッケル・コバルト・マンガン）系バッテリーの有力な代替となり、EV市場の競争環境を大きく変える可能性があります。この技術は、持続可能なエネルギー貯蔵ソリューションへの移行を強力に推進するものです。

元記事: https://www.koreaittimes.com/news/articleView.html?idxno=156856

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#18 Wausau Coated Products、再利用ガラス瓶向けに簡単剥離の新ウォッシュアウェイラベル接着剤「WA-669」を発表

公開日 2026年09月09日　Packaging Gateway　アメリカ



概要

Wausau Coated Productsは、再利用可能なガラス瓶向けに、新しいウォッシュアウェイラベル接着剤「WA-669」を発表しました。この革新的な製品は、ボトルにしっかりと接着し、物流や使用中に剥がれることなく機能性を保ちます。同時に、洗浄プロセスで残留物を残さずに簡単に剥がすことができ、ガラス容器のリサイクル効率と再利用性を大幅に向上させます。これにより、持続可能な包装ソリューションへの貢献が期待されます。

詳細

主要成果

Wausau Coated Productsは、再利用可能なガラス瓶市場向けに設計された画期的な新製品、ウォッシュアウェイラベル接着剤「WA-669」の発売を発表しました。この接着剤は、輸送や店頭での使用において、ラベルがボトル表面にしっかりと密着する高い接着強度を維持します。しかし、使用済みのボトルが洗浄プロセスに入ると、水によって容易に溶解・剥離し、ガラス表面に接着剤の残留物を一切残しません。この特性により、ガラス容器のリサイクル効率と再利用性が大幅に向上し、循環型経済への貢献が期待されます。

技術・臨床詳細

WA-669接着剤は、特定の温度と時間で水に完全に溶解するように設計された特殊な水溶性ポリマーを基盤としています。従来のラベル接着剤は、剥がす際に接着剤の残留物や紙片が残り、再利用プロセスの障壁となることが多くありました。WA-669は、このような課題を克服し、工業用洗浄機における通常の洗浄サイクルで効率的に剥離することを可能にします。これにより、ガラス瓶の洗浄品質が向上し、再利用可能な容器のライフサイクルコスト削減にも貢献します。食品・飲料業界、化粧品業界など、ガラス容器を多用する分野での採用が期待されます。

背景・業界文脈

近年、消費者の環境意識の高まりと、各国の環境規制強化により、包装材の持続可能性は企業にとって最重要課題となっています。特にガラス瓶は、その高い再利用性から環境に優しい包装材として注目されていますが、ラベルの剥離がボトル洗浄プロセスにおける大きなボトルネックでした。WA-669のようなウォッシュアウェイ接着剤は、このボトルネックを解消し、ガラス容器のクローズドループリサイクルおよび再利用システムを効率化するための重要な技術です。これにより、企業はブランドイメージを向上させるとともに、環境目標の達成に貢献できます。

今後の展望

WA-669の導入は、Wausau Coated Productsが持続可能な包装ソリューションのリーダーシップを強化する一歩となります。今後、同社はさらなるウォッシュアウェイ技術の研究開発を進め、プラスチック容器やその他の再利用可能な包装材への応用も視野に入れる可能性があります。この技術は、包装業界全体の環境負荷低減に大きく寄与し、消費者にとってもより環境に優しい選択肢を提供することになるでしょう。再利用可能なパッケージングへの移行が加速する中、WA-669は市場で重要な役割を果たすと期待されています。

元記事: https://www.packaging-gateway.com/news/wausau-wash-away-label-adhesive/

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#19 Dymax、Medical Technology Ireland 2026で医療機器向け高効率・高信頼性接着・硬化ソリューションを展示

公開日 2026年09月10日　Dymax　アメリカ



概要

Dymaxは、Medical Technology Ireland 2026にて、カテーテル組み立てを含む医療機器製造向けに特化した、効率的かつ信頼性の高い接着剤および硬化ソリューションを展示すると発表しました。同社の革新的な製品群は、精密な接着制御、包括的な硬化検証、さらには到達困難な微細領域での効果的な硬化技術を提供します。これにより、医療機器の製造効率と品質管理が大幅に向上し、安全性と性能基準の達成に貢献します。

詳細

主要成果

Dymaxは、2026年9月10日から11日にかけてアイルランドで開催されるMedical Technology Ireland 2026において、カテーテルやその他複雑な医療機器の製造プロセスを革新する、高効率かつ高信頼性の接着剤および硬化ソリューションを展示すると発表しました。同社のソリューションは、精密な接着、硬化プロセスの検証、そして狭小な、あるいは到達困難な領域での均一な硬化を可能にすることで、医療機器製造における品質管理とスループットを飛躍的に向上させます。

技術・臨床詳細

Dymaxの医療機器向けソリューションは、主にUV/可視光硬化型接着剤と対応する硬化装置で構成されています。これらの接着剤は、生体適合性、低溶出物、高強度、および迅速な硬化特性を兼ね備えており、カテーテルのルーメン接続、バルーン接着、ハブ接続、およびその他の組み立て作業に最適です。特に、同社のUV硬化システムは、正確な波長と強度で光エネルギーを供給し、接着剤の完全な硬化を保証します。これにより、医療機器の製造におけるプロセスばらつきを最小限に抑え、歩留まり向上とリワーク率低減に貢献します。また、硬化検証システムは、品質管理基準（ISO 13485など）への準拠をサポートし、医療機器の安全性を保証します。

背景・業界文脈

医療機器業界は、患者の安全と治療効果を確保するため、極めて高い品質基準と厳格な規制要件が課せられています。特に、小型化・高機能化が進む医療機器の組み立てにおいては、微細な部品の接着精度と信頼性が重要となります。従来の接着方法では、硬化時間や接着性能のばらつきが課題となることがありましたが、Dymaxの提供するUV/可視光硬化技術は、これらの課題を克服するソリューションとして注目されています。これにより、医療機器メーカーは、より複雑な設計を迅速に市場投入し、コスト効率を高めながら高品質な製品を製造することが可能になります。

今後の展望

Dymaxの展示は、医療機器製造の未来における接着技術の重要性を強調するものです。今後、同社は、さらに高度な自動化、IoT統合、およびAIを活用した硬化プロセス制御といった技術開発を進めることが予想されます。これにより、個別化医療機器の生産や、新素材への対応能力を高め、医療技術の革新に貢献していくでしょう。Dymaxのソリューションは、医療機器の小型化、精密化、そして患者安全性向上という業界のトレンドを強力にサポートし続けると見られます。

元記事: https://dymax.com/resources/news-and-media/press-releases/trade-show/dymax-showcases-efficient-and-reliable-medical-device-manufacturing-solutions-at-medical-technology-ireland-2026

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#20 太陽ホールディングス、imecと共同で先端パッケージ向け700nm RDL形成に成功 — AI・HPCチップの高性能化を加速

公開日 2026年09月11日　ChemAnalyst　日本



概要

太陽ホールディングスは、imecとの共同研究により、同社の次世代半導体パッケージング材料「FPIMシリーズ」を用いて、先進パッケージング向けに700nmの再配線層（RDL）形成を達成したと発表しました。この画期的な成果は、AIチップや高性能コンピューティング（HPC）向け半導体の微細ピッチ化と高性能化を可能にする重要な技術的進展です。従来の限界を超えるRDL技術は、半導体パッケージの集積度と電気特性を大幅に向上させ、次世代エレクトロニクスの発展に貢献します。

詳細

主要成果

太陽ホールディングスは、世界的な研究開発機関であるimecとの共同研究において、次世代半導体パッケージング材料であるFPIMシリーズを使用し、先進パッケージング技術で重要な700nmの再配線層（RDL）形成を成功裏に達成しました。この成果は、AIチップや高性能コンピューティング（HPC）向けプロセッサの微細化と高性能化を可能にする、半導体業界にとって極めて重要な技術ブレークスルーです。これにより、半導体パッケージの電気的性能と集積密度が飛躍的に向上します。

技術詳細

RDLは、半導体チップ内部の回路と外部パッケージを接続するための多層配線構造であり、その微細化は半導体パッケージ全体の性能と小型化に直結します。今回の700nm RDL形成は、従来のプロセス技術では困難であった微細ピッチでの配線パターン形成と、優れた電気的特性の両立を実現したものです。太陽ホールディングスのFPIMシリーズは、フォトリソグラフィプロセスに適した感光性ポリマー材料であり、高解像度、低誘電率、優れた耐熱性といった特性を持っています。imecの先進的なプロセス技術と組み合わせることで、極めて微細なRDLパターンを高い精度で形成し、信号伝送の高速化と低損失化を達成しました。

背景・業界文脈

今日のデジタル社会では、AI、5G、データセンターといった分野で、より高速かつ大容量のデータ処理能力が求められており、半導体チップの高性能化は止まることを知りません。特に、先端パッケージング技術は、ムーアの法則の限界が囁かれる中で、チップ性能向上の新たなフロンティアとして注目されています。RDLの微細化は、2.5D/3Dパッケージング、ファンアウトパッケージングなどの先進技術において、チップ間の接続距離を短縮し、電力効率と信号整合性を向上させるために不可欠です。太陽ホールディングスとimecの協力は、このような業界の喫緊のニーズに応えるものです。

今後の展望

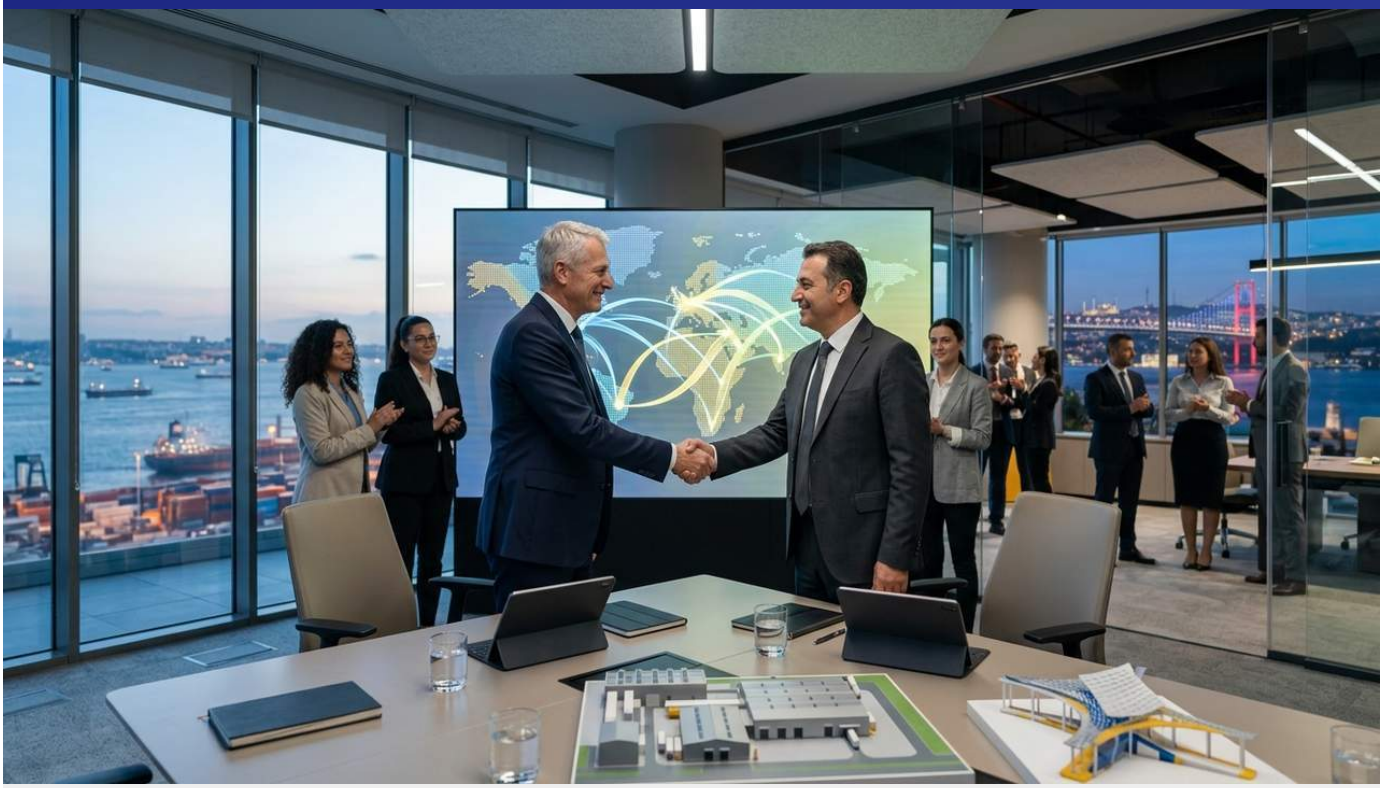
この700nm RDL形成技術は、次世代のAIアクセラレーターやHPCプロセッサ、さらには自動運転車やIoTデバイス向けの高性能チップの開発に直接的に貢献すると期待されています。太陽ホールディングスは、今回の成果を足がかりに、FPIMシリーズのさらなる性能向上と市場展開を進め、世界の半導体産業における主要な材料サプライヤーとしての地位を強化していくでしょう。この技術は、より小型で強力なエレクトロニクス製品の実現を可能にし、情報化社会の進化を加速させる基盤技術として、その応用範囲を広げていくことが見込まれます。

元記事: https://www.chemanalyst.com/NewsAndDeals/NewsDetails/taiyo-holdings-achieves-700-nm-rdl-formation-44432

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#21 Sika、トルコ接着剤メーカーAkkimの買収を完了 — グローバル市場での接着剤・シーラント事業を大幅強化

公開日 2026年09月03日　GlobeNewswire / Sika AG　スイス



概要

Sikaは、トルコを拠点とする大手接着剤・シーラントメーカーAkkimの買収を完了したと発表しました。この戦略的買収は、Sikaの接着剤・シーラント業界におけるグローバルな地位を著しく強化するものです。Akkimの広範な製品ポートフォリオと確立された流通ネットワークを取り込むことで、Sikaは地理的範囲を拡大し、製造能力を増強し、特にトルコおよび周辺地域の成長市場における大きな機会を捉えることを目指します。

詳細

主要成果

スイスを拠点とする特殊化学品メーカーSikaは、トルコを代表する接着剤およびシーラントメーカーであるAkkimの買収プロセスを無事に完了したことを発表しました。この買収は、Sikaが接着剤およびシーラント市場におけるグローバルなプレゼンスと競争力を大幅に強化するものであり、同社の成長戦略における重要なマイルストーンとなります。

技術・臨床詳細

Akkimは、幅広い産業分野で使用される高性能接着剤、シーラント、およびポリウレタン系製品の開発と製造において高い評価を得ています。その製品ラインナップは、建築、自動車、工業、消費者向けアプリケーションなど多岐にわたります。Sikaの既存の技術プラットフォームとAkkimの専門知識を統合することで、両社の研究開発能力が向上し、より革新的な製品とソリューションを市場に提供できるようになります。特に、Akkimの強みであるポリウレタンフォーム、シリコーンシーラント、およびホットメルト接着剤の技術は、Sikaの製品ポートフォリオを補完し、顧客に対してより包括的なソリューションを提供することを可能にします。

背景・業界文脈

接着剤およびシーラント市場は、建設活動の活発化、自動車生産の増加、および持続可能性への要求の高まりにより、安定した成長を続けています。トルコは、戦略的な地理的位置と急速な経済成長を背景に、建設および製造業が特に活発であり、この地域は接着剤およびシーラント製品にとって大きな潜在市場となっています。Akkimの買収は、Sikaにとってトルコ国内での製造拠点と流通チャネルを確立するだけでなく、中東、アフリカ、東ヨーロッパといった周辺の新興市場へのアクセスを拡大するための強力な足がかりとなります。これにより、Sikaはこれらの地域での市場シェアを拡大し、収益基盤を多様化することが可能になります。

今後の展望

SikaによるAkkimの買収は、グローバル市場におけるSikaのリーダーシップをさらに確固たるものにするでしょう。両社の統合により、顧客はより幅広い高品質な製品と高度な技術サポートを享受できるようになります。Sikaは、Akkimの優れた製造能力と市場知識を活用し、シナジー効果を最大化することで、収益性の向上と長期的な成長を目指します。この戦略的動きは、接着剤・シーラント業界におけるM&A活動の活発化を示すものであり、市場全体の競争環境にも影響を与える可能性があります。Sikaは、Akkimの統合を通じて、持続可能な建築と工業ソリューションの提供を強化し、そのイノベーション能力をさらに高めていく方針です。

元記事: https://www.globenewswire.com/news-release/2026/09/03/3355639/0/en/sika-closes-acquisition-of-akkim-accelerating-global-expansion-in-adhesives-and-sealants.html

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#22 Virginia Tech、ダクトテープを超える性能と化学的リサイクル性を両立したモノマテリアル接着テープを開発

公開日 2026年09月08日　Packaging Insights　アメリカ



概要

Virginia Techの研究者チームは、基材と接着剤層が完全に化学的にリサイクル可能なモノマテリアル感圧接着テープを開発しました。この画期的なテープは、既存のダクトテープに匹敵するかそれを上回る強力な接着強度を持ちながら、リポ酸由来のポリマーを使用することで、使用後に素材の特性を損なうことなく化学的に分解・再利用できるという特徴があります。この技術は、将来の包装分野、特にリサイクル可能な段ボールテープや残留物のない接着ラベルに革命をもたらす可能性を秘めています。

詳細

主要成果

Virginia Techの研究者たちは、基材と接着剤の両方が同じ化学組成で構成され、完全に化学的にリサイクル可能なモノマテリアル感圧接着テープの開発に成功しました。この革新的なテープは、一般的なダクトテープと同等かそれ以上の優れた接着強度と耐久性を示す一方で、使用後の素材を効率的に分解し、新しいテープの原材料として再利用できるという画期的な特性を持っています。この技術は、持続可能な包装ソリューションの実現に向けた大きな進展であり、リサイクル困難な接着製品による環境負荷を軽減します。

技術・臨床詳細

開発されたモノマテリアル接着テープは、リポ酸（lipoic acid）由来のポリマーを主成分としています。リポ酸は、天然に存在する脂肪酸であり、その構造的特徴を活かして、接着性と化学的リサイクル性の両方を兼ね備えたポリマーを設計することに成功しました。このポリマーは、特定の化学的処理を加えることで、その分子構造を効果的に分解し、モノマーレベルまたはオリゴマーレベルの出発原料に戻すことが可能です。この再生された原料は、その後、高品質な新しい接着テープの製造に再利用できます。これにより、素材の循環利用が促進され、廃棄物の削減とバージン原料への依存度低減に貢献します。接着性能は、様々な表面への初期粘着力、保持力、剥離強度といった標準的な感圧接着剤（PSA）評価基準で、既存の高性能ダクトテープと比較して遜色ない、あるいは優れた結果を示しています。

背景・業界文脈

現代社会では、接着剤を使用した製品が広く普及している一方で、接着剤の存在がリサイクルプロセスの大きな障壁となるケースが多々あります。特に、複合材料や、接着剤と基材が異なる化学組成を持つ製品では、効率的な分離とリサイクルが困難でした。包装業界では、環境負荷の低減と循環型経済への移行が急務となっており、リサイクル可能な接着剤の開発は長年の課題とされてきました。Virginia Techの研究成果は、この課題に対する有望な解決策を提供し、特に段ボール箱のシーリングテープや各種接着ラベルなど、大量に使用される包装用途での応用が期待されます。これにより、リサイクルシステムの効率化と、包装材全体の持続可能性向上が見込まれます。

今後の展望

このモノマテリアル接着テープ技術は、持続可能な製品設計の新たな道を切り開くものです。今後の研究では、製造コストの最適化、広範な素材への適用性、および大規模生産へのスケーラビリティが検証されることになるでしょう。この技術が商業化されれば、包装業界だけでなく、電子機器、自動車、建築など、リサイクルが困難な接着製品が使用されている多岐にわたる産業分野において、環境負荷の少ない製品設計と資源循環を実現する可能性を秘めています。Virginia Techのこのブレークスルーは、未来の接着技術とリサイクルプロセスに大きな変革をもたらすことが期待されています。

元記事: https://www.packaginginsights.com/news/virginia-tech-recyclable-adhesive-tape.html

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#23 EU BATRAWプロジェクト、EVバッテリー解体時間を最大60%短縮する半自動リサイクル技術を開発

公開日 2026年09月03日　CORDIS　EU



概要

EU資金提供プロジェクト「BATRAW」は、使用済み電気自動車（EV）バッテリーからの重要原材料を効率的に分解、リサイクル、回収、再利用するための革新的な新技術を開発しました。このプロジェクトでは、ロボティクス、AIベースのビジョンシステム、およびレーザー切断技術を統合した半自動バッテリー分解ラインが導入されました。これにより、手作業と比較して分解時間を50〜60%短縮し、同時に作業者の安全性を大幅に向上させることに成功しました。

詳細

主要成果

EUが資金提供する研究プロジェクト「BATRAW」は、使用済み電気自動車（EV）バッテリーからコバルト、ニッケル、リチウムなどの重要原材料を効率的に分解、リサイクル、回収、再利用するための革新的な技術を開発しました。このプロジェクトの最大の成果は、ロボティクス、AIベースのビジョンシステム、およびレーザー切断技術を統合した先進的な半自動バッテリー分解ラインの実現です。これにより、手作業による分解と比較して、処理時間を50%から60%削減することに成功し、同時に作業者の安全性を大幅に向上させました。

技術・臨床詳細

BATRAWプロジェクトで開発された半自動分解ラインは、まずAIビジョンシステムを用いてバッテリーパックの構造を認識し、危険な高電圧箇所やセルの配置を正確に特定します。次に、ロボットアームがレーザー切断技術を駆使して、接着されたモジュールやセル間の接続を精密かつ迅速に分離します。このプロセスは、従来の機械的な分解方法に比べて、物理的な損傷リスクを低減し、より高い純度で各材料を回収することを可能にします。また、分解プロセス中に発生する可能性のある有害ガスや熱を管理するためのシステムも統合されており、作業環境の安全性と環境負荷低減に貢献します。この技術は、バッテリーの多様な設計や化学組成に対応できるよう設計されており、将来のバッテリー技術進化にも柔軟に対応できる拡張性を持っています。

背景・業界文脈

電気自動車の普及が加速する中で、使用済みEVバッテリーの適切な処理と原材料のリサイクルは、環境保護と資源安全保障の両面から極めて重要な課題となっています。特に、コバルトやリチウムといった希少金属は、地政学的リスクや供給制約が懸念されており、その回収率は持続可能なEV産業の発展に不可欠です。しかし、EVバッテリーは複雑な構造を持ち、高電圧リスクや接着剤による強固な固定のため、その分解とリサイクルは困難でコストがかかることが課題でした。BATRAWプロジェクトの成果は、このボトルネックを解消し、より経済的で安全なバッテリーリサイクルプロセスを確立することで、資源循環型社会の実現に大きく貢献します。

今後の展望

BATRAWプロジェクトによって開発された技術は、EVバッテリーリサイクル業界に大きな変革をもたらす可能性を秘めています。今後、この半自動分解ラインの商業的スケールアップと、世界各地のリサイクル施設への展開が期待されます。また、回収された高品質な原材料は、新たなバッテリー製造に再利用されることで、サプライチェーン全体の持続可能性を高めます。将来的には、この技術が他の電子機器や産業用バッテリーのリサイクルにも応用される可能性があり、循環型経済の推進におけるモデルケースとなることが期待されています。EUは、このプロジェクトを通じて、バッテリーバリューチェーン全体における資源の効率的な利用を促進し、戦略的自律性を強化することを目指しています。

元記事: https://cordis.europa.eu/article/id/466760-new-life-for-a-dead-battery

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#24 イタコン酸化学とナノセルロース補強で高バイオ含有水性PSAの接着・凝集バランスを最適化

公開日 2026年09月09日　ACS Publications　アメリカ



概要

最新の研究では、イタコン酸化学とナノセルロース補強を組み合わせることで、高バイオ含有量の水性感圧接着剤（PSA）における接着-凝集バランスを効果的に改善する方法が示されました。このアプローチは、バイオベース接着剤の高性能化において重要な課題であった、高いバイオ含有量を維持しながら接着性能を向上させるという問題を解決します。環境負荷を低減しつつ、持続可能な接着剤ソリューションの実用化を加速させる画期的な成果です。

詳細

主要成果

最新の研究論文は、イタコン酸化学とナノセルロース補強という二つの革新的なアプローチを組み合わせることで、高バイオ含有量の水性感圧接着剤（PSA）における接着-凝集バランスを最適化する画期的な方法を報告しています。これにより、環境に優しいバイオベース接着剤の性能を、従来の石油由来接着剤に匹敵する、あるいはそれ以上に向上させるという長年の課題が解決されました。この成果は、持続可能な接着剤ソリューションの実用化を大幅に加速させるものです。

技術詳細

水性感圧接着剤は、環境負荷が低いことから注目されていますが、バイオベース含有量を高めると、多くの場合、接着強度（粘着性）と凝集強度（内部強度）のバランスが崩れ、性能が低下するという課題がありました。研究チームは、まず接着剤ポリマーの主鎖にイタコン酸誘導体（イタコネート）を導入することで、ポリマーの分子設計を精密に制御し、接着特性を調整しました。イタコネートは、バイオ由来の原料から合成可能であり、接着剤のバイオ含有量を維持しながらも、その化学的特性を通じて接着-凝集バランスの改善に貢献します。さらに、ナノセルロース（セルロースナノクリスタルやセルロースナノフィブリル）を接着剤マトリックスに組み込むことで、ナノスケールでの補強効果を発揮させました。ナノセルロースは、高いアスペクト比と優れた機械的強度を持つため、接着剤の凝集強度を向上させ、全体的な接着性能を高める役割を果たします。この二つのアプローチの相乗効果により、高いバイオ含有量を維持しつつ、優れた粘着性と凝集強度を両立する水性PSAの開発に成功しました。

背景・業界文脈

接着剤産業は、持続可能性へのシフトが喫緊の課題となっています。特に包装、医療、自動車、建築など幅広い分野で大量に使用される接着剤の環境負荷を低減することは、資源効率と廃棄物削減の観点から重要です。水性接着剤は、揮発性有機化合物（VOC）の排出量が少ないという利点がありますが、性能面で溶剤系接着剤に劣る場合がありました。本研究は、バイオ由来原料の使用を増やしつつ、性能を犠牲にしない水性接着剤の開発に焦点を当てることで、業界の持続可能性目標達成に貢献します。この進展は、バイオプラスチックや生分解性材料といったトレンドと連携し、より広範なグリーンケミストリーの取り組みを後押しするものです。

今後の展望

この研究成果は、環境に優しく高性能なバイオベース水性PSAの商用化を加速させる基盤技術となるでしょう。今後は、開発された接着剤の長期安定性、耐湿性、耐熱性などの耐久性評価がさらに進められるとともに、様々な基材への適用性や大規模生産へのスケーラビリティが検証されることが予想されます。この技術は、特に使い捨て製品やリサイクルが求められる用途において、従来の石油由来接着剤の代替として大きな市場ポテンシャルを持つと考えられます。将来的には、包装材、ラベル、医療用テープ、建築材料など、幅広い製品での採用が期待され、より持続可能な社会の実現に貢献していくことでしょう。

元記事:
https://pubs.acs.org/ascecg/article/doi/10.1021/acssuschemeng.6c04800/5427183/Restoring-Adhesion-Cohesion-Balance-in-High-Bio

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#25 Henkelメンター工場、湿気硬化型SMP接着剤回収能力を強化 — 製造廃棄物削減で持続可能な生産を推進

公開日 2026年09月03日　openPR.com　ドイツ



概要

Henkelは、米国オハイオ州のメンター工場にバッファプレスを追加設置し、湿気硬化型SMP接着剤材料の回収能力を大幅に向上させたと発表しました。この設備投資は、製造プロセスにおける廃棄物を削減し、サプライチェーン全体の経済効率を改善することを目的としています。湿気硬化型接着剤市場は2026年に29億ドル規模と評価されており、建設および工業用途での需要が拡大している中、この取り組みは持続可能な生産体制を強化する重要な一歩となります。

詳細

主要成果

Henkelは、米国オハイオ州にあるメンター製造拠点において、湿気硬化型SMP（シリル化変性ポリマー）接着剤材料の回収能力を向上させるためのバッファプレスを新たに導入しました。この戦略的なアップグレードは、製造プロセスにおける廃棄物の発生を削減し、サプライチェーン全体の運用効率と経済性を大幅に改善することを目的としています。この取り組みは、持続可能な生産体制へのコミットメントを強化し、資源の有効活用を促進するものです。

技術・臨床詳細

湿気硬化型SMP接着剤は、空気中の湿気と反応して硬化する特性を持つ高性能接着剤であり、建設、自動車、電子機器など、幅広い産業分野でその優れた接着強度、耐久性、および環境性能が評価されています。従来の製造プロセスでは、製品の切り替え時や生産ラインの調整時に、未硬化の接着剤が廃棄物として発生することがありました。今回導入されたバッファプレスシステムは、これらの工程で発生するSMP接着剤の残留物を効率的に収集し、再処理を可能にするものです。この技術により、原材料のロスを最小限に抑え、製造廃棄物量を大幅に削減することができます。結果として、生産コストの削減だけでなく、環境フットプリントの低減にも貢献し、より資源効率の高い生産モデルを実現します。

背景・業界文脈

接着剤市場、特に湿気硬化型接着剤の分野は、環境規制の強化と持続可能な製品への需要増加を背景に、急速に成長しています。2026年には湿気硬化型接着剤市場全体が29億ドル規模に達すると評価されており、建設現場での接着強度と耐久性、自動車産業における軽量化と異種材料接合のニーズなど、多様な用途での需要が拡大しています。Henkelのような大手メーカーにとって、生産効率の向上と廃棄物削減は、競争力を維持し、企業の社会的責任（CSR）を果たす上で不可欠です。今回のメンター工場のアップグレードは、こうした市場トレンドと企業の持続可能性戦略が一致した具体的な例と言えます。

今後の展望

Henkelのメンター工場における回収能力の強化は、同社の湿気硬化型SMP接着剤事業のさらなる成長を支える基盤となります。この改善は、顧客に対してより安定した供給と、環境に配慮した製品の提供を可能にするでしょう。今後、Henkelは同様の廃棄物削減および資源回収技術を他の製造拠点にも展開し、グローバルな持続可能な生産ネットワークを構築していくことが予想されます。このような取り組みは、接着剤業界全体の環境基準を引き上げ、より効率的で持続可能な製造プロセスの普及を加速させることにも貢献します。

元記事: https://www.openpr.com/news/4621165/henkel-s-mentor-site-upgrade-highlights-process-gains-as

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#26 コバルト触媒重合が、スイッチ可能な感圧接着剤向け軟質メタクリレートネマティックエラストマーを実現

公開日 2026年09月08日　ACS Publications　アメリカ



概要

最新の研究により、コバルト触媒連鎖移動重合が、スイッチ可能な感圧接着剤（PSA）用途に最適な軟質メタクリレートネマティックエラストマーの設計を可能にする効果的な戦略であることが示されました。このエラストマーは、室温で優れた接着性を示す一方で、特定の液晶相転移を利用することで高温環境下で迅速かつ残留物なく剥離できるという画期的な特性を持っています。この技術は、再利用可能な接着システムや精密な剥離が求められる電子部品組立など、幅広い分野での応用が期待されます。

詳細

主要成果

最新の研究論文は、コバルト触媒連鎖移動重合（Co-CTP）が、スイッチ可能な感圧接着剤（PSA）を実現する軟質メタクリレートネマティックエラストマーの設計において極めて有効な戦略であることを実証しました。この画期的なエラストマーは、室温で高い接着強度を発揮する一方で、特定の熱刺激（液晶相転移）によって迅速かつ残留物なく接着力を失い、剥離できるというユニークな特性を持っています。この成果は、再利用可能な接着システムや、精密な分解・修理が必要な分野に大きな影響を与える可能性を秘めています。

技術詳細

本研究では、コバルト触媒連鎖移動重合を用いて、メタクリレートベースのポリマーにネマティック液晶性を付与しました。Co-CTPは、リビング重合の一種であり、ポリマーの分子量分布と末端官能基を精密に制御できる利点があります。これにより、均一な構造を持つ軟質エラストマーを合成し、そのガラス転移点（Tg）や液晶相転移温度を調整することが可能になりました。開発されたエラストマーは、室温では固体の液晶相を形成し、強い接着性を示します。しかし、加熱によって液晶相から等方性液体相へ相転移すると、その分子構造が変化し、接着面との相互作用が急激に弱まります。この相転移温度は、接着剤の組成を調整することで制御可能です。結果として、接着面から残留物を残さずにきれいに剥離できる特性が実現され、再利用可能な部品や精密な分解が必要な電子機器の組立において大きなメリットをもたらします。

背景・業界文脈

現代の製造業では、製品の修理性向上、リサイクル性の確保、および使用後の分解容易性がますます重要視されています。特に、電子機器や自動車部品など、高機能かつ複雑な製品の多くは接着剤で組み立てられており、従来の永久接着剤では分解や修理が困難でした。スイッチ可能な接着剤は、この課題を解決するための有望なソリューションとして、長年研究開発が進められてきました。本研究で提案されたCo-CTPによるネマティックエラストマーは、既存のスイッチング接着剤に比べて、より広範な温度範囲での制御性や、よりクリーンな剥離特性を提供し、持続可能な製品ライフサイクルを実現する上で重要な役割を果たすと期待されています。

今後の展望

このコバルト触媒重合に基づくスイッチ可能な感圧接着剤技術は、様々な分野での応用が期待されます。例えば、精密電子機器の組立・修理、再利用可能なディスプレイパネル、自己修復材料、スマートパッケージング、さらにはロボティクスにおける吸着・剥離制御など、多岐にわたります。今後は、材料の耐久性、コスト効率、大規模生産へのスケーラビリティが検証されることになるでしょう。この技術が商業化されれば、製造プロセスの柔軟性を高め、製品の寿命を延ばし、最終的には廃棄物の削減と資源の有効活用に大きく貢献する、次世代の接着ソリューションとしての地位を確立する可能性があります。

元記事:
https://pubs.acs.org/mamobx/article/doi/10.1021/acs.macromol.6c01590/5427375/Cobalt-Catalyzed-Chain-Transfer-Polymerization

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#27 Sun ChemicalとCyngient、狭幅ウェブ印刷向け戦略的提携を発表 — 特殊コーティングと高性能接着剤で市場を拡大

公開日 2026年09月10日　Sun Chemical　アメリカ



概要

Sun ChemicalとCyngientは、狭幅ウェブラベルおよびパッケージ印刷コンバーター向け特殊ソリューションを強化する戦略的パートナーシップを発表しました。この提携により、両社は共同ブランドの特殊製品ラインを市場に投入し、先進的なコーティングと高性能接着剤を提供します。これにより、優れた印刷品質、差別化された装飾効果、および信頼性の高いオンプレス性能を顧客に提供し、競争が激化する印刷市場において新たな価値を創造します。

詳細

主要成果

Sun ChemicalとCyngientは、狭幅ウェブラベルおよびパッケージ印刷市場向けに特化した特殊ソリューションのポートフォリオを拡大するための戦略的パートナーシップを締結したことを発表しました。この協業により、両社は共同ブランドの製品ラインを開発し、先進的なコーティング技術と高性能接着剤を市場に提供します。この提携は、顧客に卓越した印刷品質、独自の装飾効果、および信頼性の高いオンプレス性能を提供することで、狭幅ウェブ印刷業界における競争優位性を確立することを目指します。

技術・臨床詳細

このパートナーシップによって提供される共同ブランド製品は、狭幅ウェブ印刷における具体的な課題に対処するために精密に設計されています。以下のような技術的特徴が挙げられます。

- **先進的なコーティング:** 高い耐擦傷性、耐薬品性、光沢度、およびマット効果を提供する特殊コーティングが含まれます。これにより、ラベルやパッケージの耐久性と視覚的魅力が向上します。
- **高性能接着剤:** 高速印刷プロセスに対応し、様々な基材への優れた接着強度と耐性を持つ接着剤が提供されます。これにより、製品の信頼性が向上し、製造プロセスの効率化が図られます。
- **多機能性ソリューション:** 特定の用途（例: 食品包装、医療用ラベル）に求められる規制要件を満たすよう設計されたソリューションも含まれ、顧客はカスタマイズされた性能を享受できます。

これらの製品は、印刷品質の向上だけでなく、生産ラインでのダウンタイム削減、材料消費量の最適化、および環境負荷の低減にも貢献するよう設計されています。

背景・業界文脈

狭幅ウェブラベルおよびパッケージ印刷市場は、デジタル化の進展、持続可能性への要求の高まり、および短納期・多品種小ロット生産へのシフトにより、急速に進化しています。この環境下で、印刷コンバーターは、競争力を維持するために、より高性能で効率的かつ環境に優しい材料を求めています。Sun Chemicalはインキ、コーティング、顔料の世界的リーダーであり、Cyngientは狭幅ウェブ印刷向けの特殊化学品および接着剤の革新的なプロバイダーです。両社の強みを組み合わせることで、市場のニーズに迅速に対応し、新たな価値を創造できると期待されています。

今後の展望

Sun ChemicalとCyngientの戦略的提携は、狭幅ウェブ印刷市場における製品イノベーションと市場拡大を加速させるでしょう。今後、両社は、共同ブランド製品のポートフォリオをさらに拡大し、グローバル市場での展開を強化する可能性があります。また、持続可能な材料の開発や、顧客の特定のアプリケーション要件に応えるカスタマイズソリューションの提供にも注力していくと予想されます。このパートナーシップは、印刷業界における技術革新を牽引し、顧客のビジネス成長をサポートする重要な役割を果たすと見られます。

元記事: https://www.sunchemical.com/sun-chemical-and-cyngient-unveil-strategic-narrow-web-partnership-at-loupe-americas-2026/

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#28 Dymax、高速UV/可視光硬化向けBlueWave® FXラインエミッタを発売 — 最大4.2W/cm²で生産スループットを向上

公開日 2026年09月10日　Taiwan News / Dymax　アメリカ



概要

Dymaxは、高速自動生産環境向けに設計された「BlueWave® FXラインエミッタ」シリーズを新たに発売しました。この新製品には75mmおよび150mmのラインエミッタが含まれ、最大4.2W/cm²という業界トップクラスの強度を提供し、極めて均一で高強度のUV/可視光硬化プロファイルを実現します。この技術革新は、接着、印刷、コーティングといった製造アプリケーションにおいて、生産スループットを大幅に向上させ、製造コストの削減と品質安定化に貢献します。

詳細

主要成果

Dymaxは、高速自動生産ライン向けに最適化された革新的な新製品「BlueWave® FXラインエミッタ」シリーズを発売しました。この新シリーズには、75mmおよび150mm幅のラインエミッタが含まれ、最大4.2W/cm²という卓越した光強度と、極めて均一なUV/可視光硬化プロファイルを提供します。この技術は、接着、印刷、コーティングといった精密な製造アプリケーションにおいて、生産スループットを大幅に向上させ、サイクルタイムの短縮と生産コストの削減を実現します。

技術詳細

BlueWave® FXラインエミッタは、最新のLED技術を駆使し、高効率かつ長寿命を実現しています。特筆すべきはその均一な照射強度であり、広範囲にわたる接着面やコーティング層に対しても、安定した硬化を保証します。これにより、硬化不良による製品の廃棄やリワークが削減され、製造品質の一貫性が向上します。また、75mmおよび150mmの照射幅は、様々な生産ラインの要件に柔軟に対応できるよう設計されており、既存の設備への統合も容易です。最大4.2W/cm²という高強度は、非常に高速なライン速度での硬化を可能にし、特に大量生産が求められる電子部品、医療機器、自動車部品などの製造現場でその真価を発揮します。UV/可視光硬化は、溶剤を使用しないため、VOC（揮発性有機化合物）排出量を削減し、環境にも配慮したクリーンなプロセスです。

背景・業界文脈

現代の製造業は、製品の小型化、高性能化、そしてコスト競争力の強化という複数の課題に直面しています。特に、接着、封止、コーティングといった工程では、迅速かつ高品質な処理が求められます。UV/可視光硬化技術は、その高速性、精密な制御性、および環境負荷の低さから、従来の熱硬化や溶剤系硬化プロセスに代わる有力なソリューションとして普及してきました。DymaxのBlueWave® FXラインエミッタは、このトレンドをさらに加速させるものであり、特に高精度かつ高スループットが要求される自動生産環境において、ボトルネックを解消し、製造効率を最大化する鍵となります。

今後の展望

BlueWave® FXラインエミッタの導入は、DymaxがUV/可視光硬化技術のリーダーとしての地位をさらに強化するものです。今後、この技術は、より複雑な形状の部品や、新しい素材に対応するための応用研究が進められるでしょう。また、IoTやAIとの連携により、硬化プロセスのリアルタイム監視と最適化が進み、スマートファクトリー化への貢献も期待されます。Dymaxは、継続的なイノベーションを通じて、高精度製造のニーズに応え、多様な産業分野における生産性向上と品質安定化に貢献していく方針です。この新しいエミッタは、次世代の製造プロセスを支える重要な技術となるでしょう。

元記事: https://www.taiwannews.com.tw/en/news/6437199

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#29 EVバッテリーモジュール向け剥離可能接着剤市場、エポキシ系システムが2026年に市場を牽引

公開日 2026年09月11日　openPR.com　アメリカ



概要

本記事は、EVバッテリーモジュール向け剥離可能接着剤市場に関する調査レポートの概要紹介です。この市場は、バッテリー材料のリサイクル促進と効率的な寿命末期分解への圧力により拡大を続けている。2026年にはエポキシ系剥離可能システムがその構造強度と制御された接着分離能力により、市場で大きなシェアを占めると予測されている。特に、熱剥離システムがトリガーメカニズムの分野をリードし、バッテリー解体プロセスにおける接着剤剥離の容易な経路を提供している。

詳細

本記事はopenPR.comが発行したEVバッテリーモジュール向け剥離可能接着剤市場に関する市場調査レポートの概要紹介です。

レポート概要

この市場調査レポートは、電気自動車（EV）バッテリーモジュール向け剥離可能接着剤の世界市場に焦点を当てています。バッテリー材料の回収率向上と、EVの寿命末期における効率的な分解・リサイクルの必要性が、この市場の主要な推進要因となっています。レポートは、技術の種類、用途、地域別の市場動向、および主要プレイヤーについて分析しています。

主要な調査結果

- **市場の牽引要因:** EV販売の増加と、バッテリー材料の持続可能な回収およびリサイクルに対する世界的な規制強化が、剥離可能接着剤の需要を押し上げています。特に「Right to Repair（修理する権利）」運動の広がりが、製品の分解・修理・再利用を容易にする接着技術の重要性を高めています。
- **エポキシ系システムの優位性:** 2026年において、エポキシ系剥離可能システムがEVバッテリーモジュール向け接着剤市場で最も大きなシェアを占めると予測されています。これは、エポキシ樹脂が提供する高い構造強度と、特定の条件下での制御された接着分離能力によるものです。
- **熱剥離システムの主要性:** 剥離トリガーメカニズムのカテゴリでは、熱剥離システムが市場をリードしています。加熱によって容易に接着剤が剥離する特性は、EVバッテリーの効率的な分解および材料回収プロセスにおいて、シンプルかつ効果的な手段を提供します。
- **環境への影響:** これらの剥離可能接着剤は、バッテリーリサイクルプロセスを大幅に簡素化し、貴重なレアメタルやその他の材料の回収率を向上させることで、EVバッテリーのライフサイクル全体における環境負荷低減に貢献します。

発行会社について

openPR.comは、広範な業界にわたるプレスリリース配信および市場調査レポートの集約サービスを提供しています。これにより、企業や研究機関の最新情報が広く市場に伝達されます。

今後の展望

EVバッテリーモジュール向け剥離可能接着剤市場は、今後も技術革新と環境規制の強化に後押しされ、持続的な成長が見込まれます。特に、より多様な材料に対応する剥離メカニズムや、より迅速かつ低エネルギーでの剥離が可能な次世代技術の開発が期待されます。

content_ja>

元記事: https://www.openpr.com/news/4628805/debonding-on-demand-adhesives-for-ev-battery-modules-market

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#30 B8X、2026年自動車向け構造用接着剤の革新を発表：軽量化、エコフレンドリー、自己修復機能を追求

公開日 2026年09月08日　B8X　不明



概要

B8Xは2026年の自動車産業向けに、車体パネルやフレームの接合を強化し、車両重量削減と燃費効率向上に貢献する構造用接着剤の革新を発表した。同社は、生分解性、エコフレンドリー、そして自己修復特性を持つスマート接着剤の開発にも注力している。これらの先進的な接着剤は、熱伝導性、耐薬品性、機械的強度の改善を目指し、進化する業界ニーズに応えることを目的としている。

詳細

主要成果

B8Xは、2026年の自動車産業向けに、車両のボディパネルやフレームの接着強度を劇的に向上させ、結果として車両重量の削減と燃費効率の大幅な改善を実現する、革新的な構造用接着剤を発表しました。このブレークスルーは、自動車製造における持続可能性と高性能化への要求に応えるものです。

技術・臨床詳細

- **堅牢な車体接合:** 新開発の構造用接着剤は、高強度な接合力を提供し、車体パネルやフレームの設計において、従来の溶接やリベット接合に代わる軽量かつ高剛性なソリューションを提供します。これにより、設計の自由度が増し、車両の安全性と衝突性能が向上します。
- **車両軽量化と燃費効率改善:** 接着剤の使用により、異なる素材（鋼、アルミニウム、複合材料など）の接合が容易になり、車両全体の重量を効果的に削減できます。これは、燃費効率の向上だけでなく、電気自動車においては航続距離の延長にも直結します。
- **生分解性・エコフレンドリー接着剤:** B8Xは、環境負荷を低減する生分解性およびエコフレンドリーな接着剤の開発に積極的に取り組んでいます。これは、自動車産業全体が持続可能な材料への移行を進める中で極めて重要な方向性です。
- **自己修復特性を持つスマート接着剤:** さらに先進的な取り組みとして、同社は微細な損傷が発生した際に自ら修復する能力を持つ「スマート接着剤」の開発を進めています。これにより、接着部の寿命延長とメンテナンスコストの削減が期待されます。
- **性能向上:** 新しい配合は、熱伝導性、耐薬品性、機械的強度といった主要な性能特性を向上させており、極めて過酷な環境下での自動車の信頼性を確保します。

背景・業界文脈

自動車産業は、環境規制の厳格化と消費者からの高性能化要求の高まりに直面しています。特に、車両の軽量化はCO2排出量削減とEVの性能向上に不可欠であり、マルチマテリアル設計の採用が加速しています。このような背景において、異なる材料間を効率的かつ堅牢に接合できる構造用接着剤の需要は飛躍的に増大しています。また、「循環型経済」への移行は、接着剤そのものの環境適合性や、修理・リサイクルを容易にする特性を求める動きを後押ししています。

今後の展望

B8Xが発表したこれらの構造用接着剤の革新は、自動車製造の未来を形作る上で重要な役割を果たすでしょう。軽量化、環境適合性、そして自己修復機能といった先進的な特性は、自動車メーカーが直面する課題を解決し、より安全で、より効率的で、より持続可能な車両開発を可能にします。これらの技術は、将来的に自動運転車やコネクテッドカーの進化にも貢献し、自動車産業の競争力を高める重要な差別化要因となることが期待されます。

content_ja>

元記事: http://www.b8xbond.com/news/read/1086.html

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#31 2026年の接着剤業界トレンド：ウォッシュオフ・リサイクル対応、バイオベースホットメルト、修理権を支える剥離可能接着剤が主流に

公開日 2026年09月06日　Accio　不明



概要

接着剤業界は循環型経済への移行を加速しており、2026年にはウォッシュオフ/リサイクル対応包装接着剤やバイオベースホットメルトが主要トレンドとなる。特に、修理する権利運動やEVバッテリーの循環性によって、トリガーによって接着力を失い、修理やリサイクルを容易にする「Debond-on-Demand (DoD)」産業用接着剤が登場している。ヘンケルやH.B.フラーといった大手企業が、「循環対応型」ソリューションの発表やバイオベース材料への投資を積極的に進めている。

詳細

主要成果

接着剤業界は、2026年に向けて循環型経済への移行を強力に推進しており、ウォッシュオフ対応接着剤、リサイクル可能な包装用接着剤、バイオベースホットメルト、そして特に修理権運動とEVバッテリーの循環性を背景とした剥離可能（Debond-on-Demand: DoD）産業用接着剤が主要なトレンドとして浮上しています。これにより、製品の寿命延長とリサイクル効率の向上が期待されます。

技術・臨床詳細

- **ウォッシュオフ/リサイクル対応接着剤:** これらの接着剤は、リサイクルプロセス中に容易に分離・除去できるように設計されており、特に飲料ボトルや食品容器などの包装材のリサイクル品質を大幅に向上させます。これにより、リサイクル材の純度が高まり、より価値の高い再生品への利用が可能になります。
- **バイオベースホットメルト接着剤:** 化石燃料由来の原材料に代わり、再生可能な植物由来の資源から作られるホットメルト接着剤です。二酸化炭素排出量の削減と環境負荷の低減に貢献し、持続可能な製品開発を支えます。
- **Debond-on-Demand (DoD) 産業用接着剤:** 特定のトリガー（熱、光、電気信号など）によって接着力を失うように設計された接着剤です。これにより、製品の修理、分解、部品交換、材料リサイクルが飛躍的に容易になります。特に、EVバッテリーモジュールの分解や消費者向け電子機器の修理において、その重要性が高まっています。
- **主要企業の取り組み:** ヘンケルやH.B.フラーなどの業界大手は、すでに「循環対応型」のソリューションを市場に投入し始めており、バイオベース材料の研究開発や生産への大規模な投資を行っています。これは、業界全体の持続可能性へのコミットメントを示すものです。

背景・業界文脈

世界中で環境意識が高まり、各国政府が循環型経済への移行を強く推進する中で、接着剤業界も大きな転換点に立たされています。特に、EUの「修理する権利」法案の動向や、電気自動車（EV）バッテリーの持続可能なサプライチェーン構築の必要性は、製品の設計段階から分解・リサイクルを考慮した接着技術の導入を加速させています。従来の接着剤がリサイクルプロセスの障害となることが多かったため、新しい技術への期待が高まっています。

今後の展望

これらのトレンドは、接着剤市場だけでなく、包装、自動車、電子機器、建設など、幅広い産業に大きな影響を与えるでしょう。剥離可能接着剤は、修理可能で長寿命な製品設計を可能にし、消費者の修理権を実質的にサポートします。また、バイオベース接着剤の普及は、原材料調達におけるサステナビリティ基準を引き上げ、業界全体の環境負荷を低減します。今後も技術革新は続き、より環境に優しく、より高機能な接着ソリューションが市場に登場することが期待されます。

content_ja>

元記事: https://www.accio.com/business/recyclable-glue

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

#32 ヘンケル、InnoTrans 2026で鉄道車両ライフサイクル向け接着・シーラント新製品を発表：難燃性シーラントと剥離ソリューションを導入

公開日 2026年09月04日　Henkel　ドイツ



概要

ヘンケル接着技術部門は、InnoTrans 2026で鉄道車両の全ライフサイクルをサポートする包括的なポートフォリオを発表した。主要新製品として、新型難燃性シーラント「Teroson MS 949 FR」と高性能接着シーラント「Teroson MS 940」を導入。さらに、剥離ソリューション「Loctite NEO」と塗布システム「Soho DM90」も展示し、安全性、耐久性、効率性、そして持続可能性要件の向上に焦点を当てている。

詳細

主要成果

ヘンケル接着技術部門は、InnoTrans 2026において、鉄道車両の設計から製造、運用、保守、そして最終的なリサイクルに至るまで、全ライフサイクルを網羅する革新的な接着・シーラントソリューションの包括的ポートフォリオを発表しました。特に、新型難燃性シーラント「Teroson MS 949 FR」と、高性能接着シーラント「Teroson MS 940」が注目を集めました。

技術・臨床詳細

- **新型難燃性シーラント「Teroson MS 949 FR」：**鉄道車両内装材には高い難燃性が求められます。この新製品は、EN 45545-2などの国際的な鉄道火災安全基準に適合するよう設計されており、乗客の安全性を大幅に向上させます。これにより、火災時の煙発生や有毒ガス放出を抑制し、避難時間を確保するのに貢献します。
- **高性能接着シーラント「Teroson MS 940」：**高い接着力と柔軟性を兼ね備え、鉄道車両の構造部品の接合やシーリングに最適です。振動や衝撃に対する優れた耐性を提供し、車両の耐久性とメンテナンス間隔の延長に寄与します。
- **剥離ソリューション「Loctite NEO」：**鉄道車両の長寿命化とリサイクル性の向上に対応するため、特定の条件下で接着剤を容易に剥離できるLoctite NEOが紹介されました。これは、車両の修理、部品交換、および寿命末期の効率的な分解を可能にし、循環型経済への貢献を目指します。
- **自動塗布システム「Soho DM90」：**精密で効率的な接着剤・シーラントの塗布を可能にするSoho DM90ディスペンシングシステムも展示されました。これにより、製造プロセスの自動化と品質の一貫性が向上し、人件費削減と生産効率の向上が期待されます。

背景・業界文脈

鉄道産業は、安全性、信頼性、持続可能性、そして効率性という厳しい要求に直面しています。乗客数の増加、高速化、そして環境規制の厳格化は、車両設計における材料選定と接合技術に新たな課題をもたらしています。特に、国際的な安全基準（例: 難燃性）への適合と、車両の長寿命化、修理可能性、リサイクル性の向上が喫緊のテーマとなっています。ヘンケルは、長年にわたる接着技術の専門知識を活かし、これらの課題に対応するソリューションを提供しています。

今後の展望

ヘンケルがInnoTrans 2026で発表したこれらの革新的な製品は、鉄道産業における安全性、耐久性、効率性の基準を引き上げると同時に、持続可能な鉄道車両の実現に大きく貢献するでしょう。特に剥離ソリューションの導入は、将来の鉄道車両のリサイクルと資源効率の向上において重要な役割を果たすと期待されます。ヘンケルは、鉄道車両メーカーと協力し、これらの技術を世界中の鉄道インフラに展開していくことで、より安全で環境に優しい公共交通システムの構築を支援していく方針です。

content_ja>

元記事: https://www.henkel.com/press-and-media/press-releases-and-kits/2026-09-04-innotrans-2026-henkel-showcases-solutions-for-the-entire-rail-vehicle-lifecycle-2238384

収集日: 2026年09月11日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)